



Sun Java Composite Application Platform Suite 6.2 リリース ノート



Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 821-0707-10
2009年9月

Sun Microsystems, Inc. (以下米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記述されている製品に含まれる技術に関連する知的財産権を所有します。特に、この知的財産権はひとつかそれ以上の米国における特許、あるいは米国およびその他の国において申請中の特許を含んでいることがあります。特許は、それらに限定されるものではありません。

U.S. Government Rights – Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

この配布には、第三者によって開発された素材を含んでいることがあります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

un、Sun Microsystems、Sun のロゴマーク、Solaris のロゴマーク、Java Coffee Cup のロゴマーク、docs.sun.com、Java および Solaris は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標、登録商標もしくは、サービスマークです。すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

OPEN LOOK および SunTM Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK のグラフィカル・ユーザインタフェースを実装するか、またはその他の方法で米国 Sun Microsystems 社との書面によるライセンス契約を遵守する、米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本書で言及されている製品や含まれている情報は、米国輸出規制法で規制されるものであり、その他の国の輸出入に関する法律の対象となることがあります。核、ミサイル、化学あるいは生物兵器、原子力の海洋輸送手段への使用は、直接および間接を問わず厳しく禁止されています。米国が禁輸の対象としている国や、限定はされませんが、取引禁止顧客や特別指定国民のリストを含む米国輸出排除リストで指定されているものへの輸出および再輸出は厳しく禁止されています。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われないものとします。

目次

Sun Java Composite Application Platform Suite 6.2 リリースノート	5
オペレーティングシステム、外部システム、およびプラットフォームに関する更新	5
設計時および実行時のプラットフォームに関する変更	6
オペレーティングシステムに関する変更	6
ブラウザおよび外部システムに関する変更	7
Java CAPS コンポーネントの変更点と拡張機能	7
JBI コンポーネントに関する変更と拡張機能	7
リポジトリベースのコンポーネントに関する変更と拡張機能	8
Java CAPS 6.2 で対応された課題	12
JBI に関する対応済みの課題	12
リポジトリベースに関する対応済みの課題	13
Master Data Management に関する対応済みの課題	27
Java CAPS 6.2 の既知の課題	31
アダプタに関する既知の課題	31
BPEL サービスエンジンに関する既知の課題	32
Composite Page Designer に関する既知の課題	34
Data Integrator サービスエンジンに関する既知の課題	34
Data Mashup サービスエンジンに関する既知の課題	36
データベース接続コンポーネントに関する既知の課題	37
Enterprise Service Bus に関する既知の課題	39
ファイル接続コンポーネントに関する既知の課題	40
FTP 接続コンポーネントに関する既知の課題	41
IEP サービスエンジンに関する既知の課題	42
JAXB 用の Java アプリケーションプロジェクトに関する既知の課題	45
JBI ブリッジに関する既知の課題	46
LDAP 接続コンポーネントに関する既知の課題	46
Sun Master Index に関する既知の課題	47
XSLT サービスエンジンに関する既知の課題	48

複合アプリケーションに関する既知の課題	49
JBI 管理に関する既知の課題	50
ローカリゼーションに関する既知の課題	50
インストールと起動に関する既知の課題	51
相互運用性に関する既知の課題	52
NetBeans に関する既知の課題	53
GlassFish Enterprise Server に関する既知の課題	54
JBI クラスタに関する既知の課題	55
その他の既知の課題	56

Sun Java Composite Application Platform Suite

6.2 リリースノート

Sun Java Composite Application Platform Suite (Java CAPS) は、Sun のテクノロジーを組み合わせて、サービス統合のすべての要件をサポートする、モジュール化されたプラグイン可能なビジネス統合プラットフォームを構築します。Java CAPS には、リポジトリベースのコアコンポーネントとアダプタに加え、JBI サービスエンジンと接続コンポーネントが含まれ、複合アプリケーションの設計をより柔軟に行うことができます。ビジュアル開発環境として NetBeans を使用し、作成したアプリケーションは GlassFish Enterprise Server 上に配備されます。この組み合わせにより、Java EE、JBI、およびリポジトリベースのコンポーネントを使用して、カスタム複合アプリケーション、Java EE アプリケーション、Web アプリケーション、モバイルアプリケーション、および Web サービスを開発できます。

このリリースでの変更点を、次のトピックで説明します。

- “オペレーティングシステム、外部システム、およびプラットフォームに関する更新” on page 5
- “Java CAPS コンポーネントの変更点と拡張機能” on page 7
- “Java CAPS 6.2 で対応された課題” on page 12
- “Java CAPS 6.2 の既知の課題” on page 31

HTML 形式および PDF 形式の Java CAPS のすべてのマニュアルについては、docs.sun.com で [Sun Java Composite Application Platform Suite](#) のドキュメントページにアクセスしてください。

オペレーティングシステム、外部システム、およびプラットフォームに関する更新

Java CAPS 6.2 は、新しいバージョンの NetBeans および GlassFish Enterprise Server をサポートします。また、release 6.2 では新しいオペレーティングシステムと外部システムのサポートも提供されます。

次の節に、新しくサポートされるシステムとプラットフォームの一覧を示します。

- “設計時および実行時のプラットフォームに関する変更” on page 6
- “オペレーティングシステムに関する変更” on page 6
- “ブラウザおよび外部システムに関する変更” on page 7

サポートされるシステムと外部システムの一覧については、[Planning for Java CAPS Installation](#) の“Java CAPS 6.2 Supported Operating Systems”および[Planning for Java CAPS Installation](#) の“Java CAPS 6.2 Components and Supported External Systems”を参照してください。

設計時および実行時のプラットフォームに関する変更

このリリースの Java CAPS は、次のバージョンの NetBeans および GlassFish を使用します。

- NetBeans IDE 6.5.1
- GlassFish Enterprise Server 2.1 patch 2

サポートされる JDK のバージョンは、1.5.0_14 以降および 1.6.0_03 以降です。各プラットフォームでの JDK のバージョン情報については、[Planning for Java CAPS Installation](#) の“Java CAPS 6.2 Supported JDK Versions”を参照してください。

Note – JDK 1.6.0_13 および 1.6.0_14 を Java CAPS で使用することはお勧めしません。

オペレーティングシステムに関する変更

このリリースの Java CAPS は、次のオペレーティングシステムを新たにサポートします。

設計時

- Windows Server 2008
- Red Hat Enterprise Linux AS 5.3 (64 ビット)

実行時

- Windows Server 2008 (OS: 32 ビット、JVM: 32 ビット)
- OpenSolaris 2008.11 (OS: 32 ビット、JVM: 32 ビット)
- Red Hat Enterprise Linux Server 5.3 (OS: 32 ビット、JVM: 32 ビット)
- Red Hat Enterprise Linux Server 5.3 (OS: 64 ビット、JVM: 32 ビット)
- IBM AIX 5L 5.3 (OS: 64 ビット、JVM: 32 ビット)

Note – AIX 5L 5.2 は、Java CAPS 6.2 ではサポートされません。

ブラウザおよび外部システムに関する変更

このリリースの Java CAPS には、次のブラウザおよび外部システムのサポートが追加されました。

- Firefox 3.5.2 (すべての Java CAPS ブラウザコンポーネントへのアクセスに使用)
- OpenSSO Web Services Security (WSS) Agent (HTTP アダプタ用)
- SWIFT 2009 メッセージのサポートおよび SWIFT 2009 証明書
- SAP JCo 3 (SAP BAPI アダプタ用)

Java CAPS コンポーネントの変更点と拡張機能

次の節に示す変更により、製品の拡張機能が提供されたり、コンポーネントの一般的なユーザビリティに影響する課題が解決されています。

- “[JBI コンポーネントに関する変更と拡張機能](#)” on page 7
- “[リポジトリベースのコンポーネントに関する変更と拡張機能](#)” on page 8

既存の課題に対する追加の修正については、“[Java CAPS 6.2 で対応された課題](#)” on page 12 を参照してください。

JBI コンポーネントに関する変更と拡張機能

このリリースの Java CAPS には、次の新しい JBI 機能とコンポーネントが含まれます。また、Java CAPS 6.2 の JBI コンポーネントでは、GlassFish のクラスタ化がサポートされます。リポジトリベースのアプリケーションでは、クラスタ化はサポートされません。

- スケジューラ接続コンポーネント
この新しいコンポーネントは、JBI サービスの起動にスケジュール機能を提供し、ほかの JBI コンポーネントを起動するトリガーをスケジュールすることができます。
- BPEL サービスエンジン
 - 検証アクティビティのサポート。
 - ビジネスプロセスに JavaScript コードをアクティビティとして追加する機能。
- ファイル接続コンポーネント
 - UTF-16 文字エンコーディングのサポート。

- オンデマンド読み取りに関する設定可能なオプション。読み取りが終わったファイルリソースを削除できます。
- Java 正規表現ベースのファイル名パターンを使用して、ポーリングのファイル名を指定する機能。この機能は、`fileNameIsRegex` という名前の新しい `file:message` 属性によってサポートされます。regex は出力ファイルではサポートされません。
- ロックファイル用のディレクトリを、`fileDirectory` プロパティからの相対を使用せずに指定する機能。この機能は、新しい `file:address` 属性の `persistenceBaseLoc` によってサポートされます。
- FTP 接続コンポーネント
 - ロックファイル用のディレクトリを、新しい `ftp:address` 属性の `baseLocation` を使用して指定する機能。
- HTTP 接続コンポーネント
 - OpenSSO Web Services Security (WSS) Agent のサポート。これにより、HTTP BC がリモートマシンまたはローカルマシンの OpenSSO Enterprise 8 と通信できるようになります。
- LDAP 接続コンポーネント
 - 接続プールのサポート。
- JMS 接続コンポーネント
 - WebSphere Message Queue での複数キューの使用のサポート (CR 6812395)

リポジトリベースのコンポーネントに関する変更と拡張機能

このリリースの Java CAPS には、リポジトリベースのコンポーネントに対する次の変更と拡張機能が含まれます。

- HL7 JCA アダプタ

この新しいコンポーネントはアダプタパックの一部であり、HL7 メッセージングのサポートを提供します。
- 全体的な変更と拡張機能
 - 変更したファイルを手動でインポートする代わりに、ユーザーライブラリ JAR ファイルの共通パス `netbeans.user/userdir/lib` を作成して、任意の JAR ファイルを使用する機能。外部 JAR ファイルをこのディレクトリと、アプリケーションが配備されるアプリケーションサーバーの `domain/lib` にコピーできるようになりました。(CR 6735569)
 - Enterprise Manager の「サーバーのタイプ」リストで、「Sun Java System Application Server ドメイン」は SJSAS 9.1 と GlassFish ES v2.1 の両方を表しません。(CR 6866695)

- LDAP グループの接頭辞のサポート。役割とグループに接頭辞を使用するには、`startserver.bat` (または `.sh`) の `JAVA_OPTS` セクションに、次の設定を追加する必要があります。

```
-Dorg.apache.catalina.realm.JNDIRealm.ROLE_PREFIX=prefix
```

`prefix` は、使用する完全な LDAP 接頭辞です (たとえば、`com.sun.java`)。

(CR 6760987)

- Alert Agent
 - 認証がない SMTP サーバーに電子メールを送信できるように、Enterprise Manager でアラートチャンネルを作成または設定しているときに、`mail.smtp.auth` を `false` に設定する機能。この機能を利用するために、Enterprise Manager で「アラートエージェントチャンネル」タブの「新規」または「編集」をクリックしたときに表示される「チャンネル」ウィンドウに、「認証を使用」という名前の新しいチェックボックスが追加されました。(CR 6847411)
 - Sun Java System Message Queue (SJSMQ) の JMS トピックにアラート通知を送信する機能。Alert Agent のチャンネルを設定するには、Enterprise Manager で「Alert Agent's Channel」タブの「新規」または「編集」をクリックします。「チャンネル」ウィンドウの「タイプ」フィールドで、「JMS」を選択します。ウィンドウが変更され、JMS プロパティが表示されます。(CR 6736357)
- Business Process Manager
 - 適切な抽象タイプをグラフィック表示し、キャスト選択をサポートして、これらの機能をサポートする正しい BPEL コードを自動的に生成します。
 - Worklist Manager は、タスクにフィルタを適用する機能を備え、クエリーを実行したり、属性に基づいてデータを選択できるようになりました。フィルタは AND/OR 演算子をサポートします。(CR 6637459)
- HTTP 用の Sun アダプタ
 - HTTP アダプタで処理されるメッセージの長さを取得する機能。非常に長いメッセージでは、処理時間が長くなる場合があります。また、この機能により、指定したサイズを超えるメッセージの処理を回避することができます。この機能に対応して、2つのメソッドが追加されました。
 - `public void head () throws HTTPApplicationException`
このメソッドは、HTTP HEAD 操作を呼び出します。HttpClientApplication クラスにあり、`get` に似ています。ただし、サーバーは応答にメッセージ本体を返しませんが、`getRequest` メソッドから返された `HTTPRequest` オブジェクトを使用して、HTTP 要求データを設定できます。続いて、`getResult` メソッドから返された `HTTPResult` オブジェクトから、結果を取得できます。この構文は次のとおりです。
 - `public int getContentLenght() throws HTTPApplicationException`

メソッドは `HTTPResult` クラスにあります。HTTP 応答のヘッダーに指定されたコンテンツの長さを抽出します。`content-length` ヘッダーの値が設定されていない場合は、例外がスローされます。

(CR 6860182)

- SAP BAPI 用の Sun アダプタ
 - インバウンド SAP BAPI アダプタで負荷分散を簡単に設定できます。この設定方法をサポートするために、接続マップのインバウンドアダプタプロパティに1つ、環境のインバウンド外部システムプロパティに2つのプロパティが、それぞれ新しく追加されました。新しいプロパティは次のとおりです。
 - **Use Load Balanced Server:** このプロパティは接続マップで設定します。負荷分散が有効な SAP サーバーを使用している場合は **true** に、それ以外の場合は **false** に設定します。
 - **Message Server Hostname:** このプロパティは環境で設定します。プロパティエディタで、「インバウンド SAP BAPI eWay」を展開し、「サーバー接続設定」を選択してプロパティにアクセスします。R/3 Message Server のホスト名を指定します。
 - **Application Server Group:** このプロパティは、環境の前のプロパティと同じ場所で設定します。作業負荷を共有している SAP アプリケーションサーバーの名前を指定します。

(CR 6725723)

- 動的構成のために、OTD の次のアウトバウンド接続プロパティを公開します。
 - アプリケーションサーバーホスト名
 - システム番号
 - クライアント番号
 - ユーザー
 - パスワード
 - 言語
 - システム ID
 - ゲートウェイホスト名
 - ゲートウェイサービス
 - メッセージサーバーホスト名
 - アプリケーションサーバーグループ
 - ルーター文字列

これらのプロパティを使用するには、次の手順に従います。

1. 接続プロパティの値を `set*` メソッドを使用して設定します。
2. `connectWithNewParams` を呼び出して、SAP 接続設定オブジェクトの値を動的な値に切り替えます。

3. connect を呼び出して、SAP への接続を確立します。

(CR 6733879)

- STCMS
 - 保護された同時 FIFO モードでサブスクライバが保持できるコミットされていないメッセージの数に、新しい制限を提供します(この値は設定可能で、デフォルトは 1000 です)。これまでは、メッセージセレクトと保護された同時 FIFO を使用しているときに、メッセージを異なる順序で受信すると、STCMS サーバーがタイムアウトしていました。新しい制限により、タイムアウトの発生を回避します。(CR 6845501)
 - 送信先名で、アスタリスクのワイルドカード文字 (*) をサポートします。(CR 6601025)
 - XSD OTD ウィザード
 - XSD OTD エディタから XSD ノードをエクスポートするときに、ダイアログボックスが表示されます。ダイアログボックスには 2 つの新しいオプションが表示され、マーシャル出力の名前空間を制御できます。
 - デフォルト名前空間の発行
 - オプションのデフォルト属性の発行
 - OTD の継承とオブジェクトのキャスト機能は、XSDArtifact.jar ファイルをインポートせずに使用できるようになりました。(CR 6734083)
 - Sun Master Index
 - アクティブな EUID でマージした EUID を検索するときのパフォーマンスを向上させるために、sbyn_merge テーブルの merged_euid 列にインデックスが追加されました。この変更を既存のデータベースに実装するには、Master Index データベースに対して次の SQL 文を実行します。


```
CREATE INDEX SBYN_MERGE2 ON SBYN_MERGE (MERGED_EUID ASC)
```
 - ExecuteMatchLogics クラスに、想定一致の発生を停止するための rejectAssumedMatch メソッドが含まれます。これらの拒否された想定一致は、潜在的な重複になるべきですが、そうなりません。これに対応するために、2 つのメソッドが DecisionMakerResult クラスに追加されました。
 - void rejectAssumedMatch() - 想定一致を拒否するフラグを設定します。
 - void acceptAssumedMatch() - 想定一致を受け入れるフラグを設定します。
- MasterControllerCoreImpl.processMatch メソッドでは、ExecuteMatchLogics.rejectAssumedMatch メソッドが true を返し、disallowAdd メソッドが false を返した場合、新しい rejectAssumedMatch メソッドが呼び出されます。詳細は、[Open Dm MI 課題 135](#) を参照してください。(CR 6739926)

- Sun Master Index のサーバープロジェクトとクライアントプロジェクトを別のサーバーに配備する場合は、`NetBeansHome/etc/netbeans.conf` ファイルを変更して、次のテキストを `netbeans_default_options` プロパティに追加する必要があります。

```
-J-DJNDI_PROVIDER_URL=\\"corbaname:iiop: MasterIndexHost:iiop-port\"
```

`MasterIndexServer` は、マスターインデックスサーバープロジェクトを配備するアプリケーションサーバーをホストするサーバーの名前です。`iiop-port` は、`domain.xml` の `orb-listener-1` のポート番号です。

(CR 6755913)

Java CAPS 6.2 で対応された課題

次の節に、このリリースの Java CAPS で対応された課題の一覧を示します。このドキュメントでは、リポジトリベースの課題の一覧を示し、JBI の課題についてのリンクを示しています。

- “JBI に関する対応済みの課題” on page 12
- “リポジトリベースに関する対応済みの課題” on page 13
- “Master Data Management に関する対応済みの課題” on page 27

JBI に関する対応済みの課題

このリリースでは、JBI の設計時および実行時コンポーネントに対して、多数の更新が行われています。設計時コンポーネントおよび実行時コンポーネントの両方について、対応済みの課題へのリンクを示します。

- このリリースで解決されたすべての実行時コンポーネントの課題を確認するには、[OpenESB IssueTracker](#) を参照してください。
- このリリースで解決されたすべての設計時コンポーネントの課題を確認するには、[NetBeans IssueTracker](#) を参照してください。

Note – これらのリンク先ページでは、該当する課題のクエリー検索を行う必要があります。JBI の実行時コンポーネントおよび設計時コンポーネントに関する解決済みの課題を一覧で確認するには、『GlassFish ESB Release Notes』の「[Issues Resolved](#)」を参照してください。

次の表に示す課題も、JBI コンポーネントで対応されています。

課題ID	説明
6856003	次の Data Integrator の演算子のサポートが、Java CAPS 6 に引き継がれていません。 <ul style="list-style-type: none"> ■ Normalize Name ■ Parse Address ■ Parse Business Name ■ Null If ■ Number to Hex ■ String to Hex
6856270	ETL コラボレーションにフラットファイルのテーブルが含まれている場合、Data Integrator プロジェクトのランタイムでエラーが発生します。
6723702	ETL コラボレーションからデータベーステーブルメタデータを更新すると、主キーが更新されません。
6808993	ETL モニターを起動したときに、空白のページが表示されます。
6784306	Data Integrator (eTL) Monitor で「Purge All」を選択したときに、ページを確認または取り消すための確認ダイアログボックスが表示されません。
6808822	管理コンソールを使用して、FTP BC のアプリケーション設定を変更することはできません。
6763628	HTTP BC および Access Manager を使用しているときに、HTTPS ポートで動作中の Access Manager に対して認証を行うと、エラーが発生します。
6804542	GlassFish ES から LDAP BC をアンインストールした場合、管理コンソールを使用して再インストールできません。
6805041	CASA エディタでは、接続コンポーネントのすべてのコンシューマポートを無効にできません。

リポジトリベースに関する対応済みの課題

次の表に、このリリースで対応された、リポジトリベースのコンポーネントに関する課題のリストと簡単な説明を示します。

課題ID	説明
6826572	あるバージョンの最初のパッチインストールで <code>-basedir</code> および <code>-type</code> 引数を使用した場合、以降のパッチインストールでも、これら2つの引数を使用しなければインストールが失敗します。
6873904	Alert Agent で、アプリケーションサーバーホストに FQDN の代わりに「localhost」が使用されている場合、電子メールアラートはサーバーの停止を誤って通知します。

課題 ID	説明
6673876	Alert Agent の通知ウィンドウで、コンポーネントのアラートタイプが表示されるべきところに、「undefined」のテキストが表示されます。
6854720	コラボレーションによって送信されたアラートが、Alert Agent に正しく送信されません。
6758036	configagent の URL (http://hostname:portnumber/configagent) で、HTTP 403 エラーがスローされます。
6741432 6791279 6817248 6818090 6721528 6793310 6688669 6818531 6795512 6813828	<p>コードの補完が正しく機能しない場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ データベース OTD の場合 ■ バッチアダプタの場合 ■ SAP ALE アダプタの IDoc の場合 ■ OTD JAR ファイルの作成中に、アダプタがコードジェネレータ例外をスローした場合 ■ JCD が別の JCD を呼び出している場合 ■ 反復するノードがある XSD OTD を使用する、R5.1.3U4 より古いバージョンで作成されたプロジェクトの場合 ■ Excel OTD および COM/DCOM アダプタの場合 ■ 特定のユーザーまたは特定のサブパッケージを使用する場合
6870281	Java CAPS のインストール中に、重複するモジュールが別々のディレクトリにインストールされます。
6797961	共通ライブラリファイルの場所が、Java CAPS R6U1 のインストールパスからの相対になるように変更されます。ある Java CAPS 環境で作成したプロジェクトを別の Java CAPS 環境にインポートすると、参照エラーが発生します。
6854845	以前のバージョンからインポートされたプロジェクトの Java コラボレーションを開くと、null ポインタ例外が発生します。
6820987	Java デバッガが、Java コラボレーション定義 (JCD) 内の指定したブレークポイントで停止しません。デバッガは不正な状態の例外をスローします。
6738600	JDK 1.6.0 を日本語のロケールで使用している場合、Java CAPS が論理ホストの作成に失敗し、XML エラーを生成します。
6819884	ビルドプロセス中に null ポインタ例外が発生します。
6854726	JAR ファイルをエクスポートしてチェックインしたあと、エクスポートしたファイルをチェックアウトするとエラーが発生します。
6769414 6774099	接続マップがコピーされるときに、バッチアダプタで UUID が再使用されます。アダプタは UUID を使用して状態ファイルを保存します。
6698893	Sun Adapter Development Kit を使用して開発されたアダプタは、接続マップでアダプタのプロパティが変更されたときに、null ポインタ例外をスローします。

課題ID	説明
6740575	インポートした JAR ファイルが更新されると、不正な状態の例外が発生します。
6866132	NetBeans および GlassFish ES の両方を Solaris 上で実行している場合、アプリケーションを配備すると、IAS 配備の例外が発生します。
6737840	WSDL ドキュメントを使用する JCD をコンパイルすると、JaxRpcCodelet 例外がスローされます。
6749529	HL7、ファイル、またはバッチの外部システムプロパティを編集したあと、コンポーネントにチェックインすると、プロパティを再表示できなくなります。
6789726	サイズの大きい Java コラボレーション定義を Java コラボレーションエディタで開くときに、長い時間がかかります。
6811471	Java コラボレーションエディタで正しくないクラス名を使用すると、コンパイルが失敗します。
6697896	JCD のメソッドが、例外をスローして throw 節を取り込まない場合、Java コラボレーションエディタは足りない節を検出しません。ビルドプロセスは失敗します。
6763815	JAR ファイルを JCD にインポートしようとする、スタックオーバーフローエラーが発生する場合があります。
6850777	JCD コード検証の検証ウィンドウには、JCD コード中のエラーの場所に移動するリンクが表示されなくなりました。
6711362	JCD を再起動するときに、一部の SAP BAPI RFC OTD のメソッドで JCD の検証が失敗します。
6856662	OTD ノードを展開してフィールドに文字列リテラルを追加するとき、「文字列リテラル」を選択すると OTD のツリー表示が折りたたまれてしまうため、再度ノードを展開する必要があります。
6784131	日本語のロケールを使用しているときに、新規プロジェクトウィザードが英語で表示されます。
6776449	日本語のロケールを使用しているときに、CAPS のリポジトリメニューが英語で表示されます。
6824032	入力データのコーディング、エンコーディング、デコーディング、および出力データのコーディングに Shift_JIS、EUC_JP、MS932、UTF-8、または ASCII を設定すると、OTD テスターおよび JCD エディタを開けません。不明のエンコーディング名のエラーが発生します。
6864437	XSD OTD テスターが断続的にハングします。
6762637	ノードをインポートしたカスタム HL7 OTD で OTD テスターを使用している場合、OTD ノードに余分なフィールドが表示され、メッセージが正しくマッピングされません。

課題 ID	説明
6670197	XSD および DTD OTD テスターで、エンコーディングリストに Big5 エンコーディングが表示されません。
6785593	Java CAPS を日本語版の Windows 2003 で使用している場合、Enterprise Manager で「トピック」を選択できません。
6855515	アプリケーションサーバーが応答を停止したときに、電子メールアラートが生成されません。
6865584	Enterprise Manager をシャットダウンするときに、関連するプロセスの一部が停止しません。
6721124 6721126 6716090	Enterprise Manager でサーバーリストの表示に時間がかかります。
6800355	サーバーログの場所を変更したあとに、Enterprise Manager が元の場所にある古いサーバーログを表示し続けます。
6732516	SSL 用に設定された JMS Grid デモンへのメッセージの発行を、Enterprise Manager でサポートする必要があります。
6847410	JCD によって送信されたカスタムアラートを、Enterprise Manager で表示できません。
6751770	Enterprise Manager の「マネージャーサーバー」ウィンドウに、アプリケーションサーバーのユーザー名とパスワードが暗号化されずにテキストのままに表示されます。
6851084	Enterprise Manager で複数のドメインを監視しているときに、ドメインの状態が「UNKNOWN」になり、監視サービスを続行するには Enterprise Manager の再起動が必要となります。
6846203	Enterprise Manager が論理ホストと異なる場所にある場合、キューおよびトピックの「前回の公開日時」に「NA」が表示されます。
6594815	Event Management と Application Deployer 間の通信不良により、サーバーログに次のエラーが表示されます。 Access denied for user: lh1.mydomain.com:18000. Password is invalid.
6759925	Enterprise Manager は、ドメインの再起動後にアラートを受信しません。
6859272	アプリケーションサーバーの起動時に、電子メールアラートが生成される必要があります。
6701138	Java CAPS を繁体字中国語のロケールで使用しているときに、ほとんどのコンポーネントが GlassFish 管理コンソールに英語のメッセージを出力します。
6723372	Sun Message Server のキューを Enterprise Manager を使用して削除するときに、メッセージサーバーが一時停止し、回復しません。以降の接続はすべて失敗します。

課題ID	説明
6839760	Enterprise Manager を使用して、ジャーナル処理されたメッセージを再発行できません。
6807782	アプリケーションサーバーのシャットダウン時には、電子メールアラートが生成される必要があります。
6632052	新しい Enterprise Manager Web アプリケーションの設定プログラムで、日本語の翻訳が必要です。
6585570	コマンド行のコードジェネレータが Linux プラットフォームで動作しません。
6692113	Web サービス定義のインポートが、実行時検査の例外により失敗します。
6803308	JCD からの WSDL ドキュメントを BPEL プロジェクトに組み込む場合 (したがって、ビジネスプロセスは JCD Web サービスを呼び出すことが可能)、BPEL プロジェクトのビルドおよび配備によって生成される WSDL ドキュメントが誤っています。
6758401	asadmin extract-caps-application-configuration コマンドを実行しても、接続マッププロパティファイルが生成されません。
6794552	GlassFish でホストされる Web サービスを公開するときに、WSDL ファイルが間違ったファイルにリダイレクトされます。
6818409	SOAP フォルト応答に ASCII 以外の文字が含まれている場合、これらの文字が正しく転送されず、「Invalid byte 2 of 3-byte UTF-8 sequence」のエラーが生成されます。
6767075	コネクタ接続プールのパスワードが暗号化されている場合、GlassFish ES とリモート JMQ ブローカの間で JMQ ログインが失敗します。
6846935	JAX RPC が nillable 属性の xsi:nil を正しく処理しません。外部 Web サービスの呼び出しのあと、名前空間のエラーが発生します。
6721690	JMS JCA 再配信までの待ち時間 (ミリ秒単位) と試行回数が 5000 に制限されています。この制限を取り除く必要があります。
6755951	JMS JCA アクティベーションが接続リークにより失敗します。これにより、JMS Grid でメモリーリークが発生します。
6730245	JMS JCA ウィザードで、並行性モードのオプションが不正です。指定できる値は、serial、cc、および sync です。
6737996	リポジトリベースのプロジェクトで lookup://ResourceName を使用して管理接続プールを検索する際に、JMS JCA メッセージ駆動型 Bean を使用できません。
6704923	期限切れの JMS メッセージが、Enterprise Manager と制御ユーティリティにしばらく表示されます。
6628677	ログファイルの名前が初期化中に上書きされるため、デフォルトの stcms.log ファイルの場所を変更できません。

課題 ID	説明
6799451	未確定トランザクションをキュー受信者に対してロールバックしたあと、メッセージは再びキューのメッセージ数に含まれるものの、再配信されません。
6793140	未確定トランザクションを回復したあと、トランザクションのデータベース参照がクリーンアップされません。これにより、データベースファイルのサイズが増大します。
6821855	データベースファイルがメッセージでいっぱいになり、新しいファイルが作成されたあと、同期が最新の状態にならない場合があります。したがって、サーバーが再起動されると、メッセージが再配信されて Duplicate Message On Restart のエラーが発生します。
6795780	古い stcjs.jar クライアントを使用して STCMS キューから JMS メッセージを受信する場合、クライアントが受信をコミットするときに、持続性の最適化で障害が発生します。また、STCMS をホストしているドメインを再起動するときに、消費されたメッセージに消費済みのマークが付きません。
6636894	stcmsctrlutil を使用して JMS サービスを停止すると、アプリケーションサーバーはブロックしているすべての JMS クライアントスレッドを中断し、クライアントが割り込み例外をスローします。
6768755	STCMS サーバーに対して stcmsctrlutil.exe を実行すると、poller のエラーが発生します。
6777456	バックログマネージャーのログアクションリストの基になる循環リストは、スレッドに対して安全ではありません。
6805901	ソケットのプールが有効なときに、STCMS クライアントの Ping 実行プログラムが、自身で所有していないソケットを正しくクローズしません。
6820661	TxLogManager は空のデータベースファイルを削除できません。起動時のシーケンス番号に不連続が生じます。STCMS ログに壊れたパイプのエラーが記録されます。
6808637	raunifiedjms.jar ファイルを、最新バージョンの stcjs_453.jar で更新する必要があります。
6831154	複数の JMS Ping 実行プログラムのスレッドで、メモリー不足のエラーが発生します。
6673656	Solaris および Linux で、コマンド asadmin restore-stcms を実行しても STCMS インスタンスが復元されません。
6800006	STCMS IQ Manager がメッセージの処理を停止し、最終的にクラッシュしてコアダンプを生成します。
6717194	負荷が大きい状態で、メモリーの断片化によって STCMS がメモリーを過度に使用し、サーバーが応答を停止します。

課題ID	説明
6821861	ジャーナル処理が有効な場合、起動時に次のメッセージが <code>stcms.log</code> に記録されます。 <code>StartupMessageLists() : MessageQueue with id=xxx was deleted</code>
6794825	Java CAPS に、Java Message Queue 4.2 以降を含めます。
6798247	強度の負荷テスト中に、アプリケーションサーバーで ping のタイムアウトが発生し、クライアント接続が強制的に切断される場合があります。
6855097	トランザクションの処理中にビジネスプロセスの配備を取り消して再配備すると、ドメインを再起動するまで、アプリケーションサーバーが連続ループでスタックします。
6801521	STCMS サーバーがソケットで ping メッセージを受信する前に JMS クライアントのネットワーク接続を無効にすると、ソケットが接続を確立したままになり、クリーンアップされません。
6845567	JMS サーバーのメッセージ数が <code>ServerMaxMessage</code> の値に達すると、スロットリングが開始され、挿入速度が低下します。
6772445	未確定トランザクションが正しく回復されないために、重複する JMS メッセージが生成されます。
6850646	ジャーナル処理プログラムが、 <code>backup.log</code> ファイルでキューまたはトピックのバックアップ LSN を誤って上書きする場合があります。これにより、同じメッセージが重複してバックアップされます。
6831273	送信先がキューで送信元がトピックの場合、Java Message Queue のメッセージ再配信が正しく動作しません。
6793357	<code>receive</code> メソッドが複数のクライアントインスタンスで使用されている場合、メッセージが JMS キューからピックアップされません。
6746747	<code>setClientId</code> メソッドがクライアント ID を変更しようとする時、例外 (<code>javax.jms.IllegalStateException</code>) が発生します。
6835050	64 バイトモードで動作している Windows Server 2003 で、JMS がサイズの大きいメッセージを処理できません。
6780050	メッセージセレクトが異なる複数のサブスクライバが、同じトピックをサブスクライブする場合、再起動時に JMS メッセージが失われます。
6731073	メッセージセレクトが同じトピックをサブスクライブする場合、JMS サーバーがシーケンス番号を複製します。
6728669	メッセージセレクトを使用して一部のサブスクライバがセレクトに一致しない場合、サーバーは再起動時にそれらのメッセージをスキップするために無効なメッセージ位置情報を使用し、応答を停止することがあります。
6697729	要求/応答のシナリオで ESB API Kit を使用するとき、IQ Manager でメモリーリークが発生し、頻繁に再起動が必要になります。

課題 ID	説明
6729721	ESB API Kit for C/C++ クライアントが SSL を使用して接続するとき に、QueueReceiver.receive および QueueReceiver.receiveNoWait メソッドが例外 をスローします。
6768533	ESB API Kit for COBOL では、JMSEMAP.COB および JMSOMAP.COB ファイルが EBCDIC 形式ですが、これらは ASCII 形式にする必要があります。
6802532	ESB API Kit for COBOL のサンプル JMSRQRP の実行中にエラーが発生します。
6856220	OTD エディタを使用して OTD テンプレートをインポートするときに、エラーが 発生します。
6776513	タイプが「ANY」の要素を含む DTD から作成された DTD OTD で、データが正し く解析されません。
6704168	NetBeans で、ドロップダウンメニューのコピーオプションが HL7 OTD で動作しま せん。
6734987	Oracle OTD テーブルノードのメソッドが、Java コラボレーションエディタの自動 補完リストに表示されません。
6713648	外部テンプレートからユーザー定義の OTD に要素を追加する場合、OTD エ ディタで OTD を読み込むことができません。
6861987	EDIFACT OTC Library は、NetBeans からアクセスできません。
6786703	メッセージに特殊なマスク文字がある場合、EDIFACT メッセージのアン マーシャル処理が動作しません。
6816675	EDIFACT OTD のマーシャル処理で、小数点の前の 0 が保存されません。
6687344	テーブルに複数の同義語がある場合、Oracle OTD ウィザードでテーブルに重複す る行が表示されます。
6666832	OTD で Oracle または Sybase の準備された文を変更すると、パラメータ名がすべて param1、param2 などにリセットされます。これにより、準備された文を使用する コードが破壊されます。
6764153	OTD で Oracle または Sybase の準備済み文を変更すると、更新が保存されません。
6605314	OTD ウィザードを使用してプロシージャから OTD を作成するときに、戻り値の パラメータに java.sql.ARRAY タイプを選択すると、例外が発生します。
6744950	ASC_X12 OTD で、xsi:type="ST" で「ANY」として定義されたノードをアン マーシャル処理しようとする、アンマーシャル例外がスローされます。
6773219	XSD OTD アンマーシャル処理の実行速度遅延。
6757893	コマンド行で relaunch.sh を使用して、XSD OTD を再起動できません。
6802091	コマンド行から XSD OTD を再起動すると、OTD が自動的にチェックアウトされ ます。

課題ID	説明
6784305	XSD OTD のマーシャル処理のあと、解析されたデータに追加の文字が表示されま す。
6731064	カスタム OTD とビジネスプロセスを含むプロジェクトを Java CAPS 5.1.1 からイン ポートした場合、配備されたプロジェクトを実行すると、実行時例外が発生しま す。
6755454	SWIFT の検証 OTD およびコラボレーションに対する複数の機能強化。
6755496	一部の <code>private</code> メソッドが、SWIFT OTD ライブラリの MT フィールドに対して、検 証コラボレーションに生成されていない対象によって使用されています。
6755961	類似する 2 つのパターン「 <code>cv/160-288h ls</code> 」と「 <code>CV/160-288h</code> 」で、解析エラーが 発生します。
6765321 6755499 6867642	SWIFT 2008 OTD Library の MT フィールドに対する複数の修正。
6788175	SWIFT OTD Library で、フィールド 40E が MT700、MT710、および MT720 で解析 に失敗します。
6771459	2008 SWIFT OTD Library の MT541 OTD を含むプロジェクトで、コマンド行のビル ド処理が失敗します。
6862418	SWIFT OTD の SVR ルールを更新する必要があります。
6758499	SWIFT 2008 OTD Library に対する複数の修正。
6873632	SWIFT OTD Library は、BPEL ユースケースシナリオで機能しません。
6674137	OTD エディタの「文字列からのアンマーシャル」ボタンを使用して SWIFT MT300 メッセージのアンマーシャル処理を行うと、エラーが発生します。
6773189	SEF OTD ウィザードが SEF OTD を生成しません。
6828882	COBOL Copybook Converter が、再定義された項目で「OCCURS」を正しく処理し ません。これにより、生成された OTD の反復ノードに対して、誤ったデータがア ンマーシャル処理されます。
6614227	同じ OTD を外部テンプレートから OTD エディタに 2 回ドラッグすると、エ ディタに余分なフィールドが表示されます。
6817815	OTD に再帰的なノードが含まれる場合、フィールドをマップしようすると NetBeans が応答を停止します。重大なヒープサイズエラーが発生します。
6770478	COM/DCOM アダプタに対して、Java コラボレーション定義 (JCD) を作成できませ ん。
6732365	Weblogic OTD のメソッドを JCD から呼び出せません。

課題 ID	説明
6855976	2つの要素を持つ XSD OTD を使用するとき、それぞれに子があり、同じ名前を共有している場合、一方の要素の属性を変更すると、他方の要素の属性も変更されます。
6820389	XSD から生成された OTD で <code>remove</code> メソッドを呼び出すと、生成された OTD クラスにメソッドが表示され、メソッドの完了ダイアログボックスが表示される場合でも、コンパイルエラーが発生します。
6821073	Command Line Branch Installer Tool をバージョン 6.2 に追加する必要があります。
6838020	複数の IP アドレスが設定されたマシンに、 <code>SwiftOTDLibrary2008.sar</code> ファイルをインストールできません。
6766868	カスタムの管理者ユーザー名とパスワードを使用している場合、パッチのインストールが失敗します。このリリースで、パッチインストーラに <code>-repuuser</code> と <code>-reppwd</code> の 2 つのオプションが追加されます。
6861603	インストールされていない Java CAPS コンポーネントを使用するプロジェクトをインポートするときに、インポート処理が警告を出さずに失敗します。
6702637	中国語のロケールで動作している複数のリポジトリプランチがあるときに、NetBeans で別のプランチに変更できません。
6743160 6763648	リポジトリプロジェクトインポートツールが、コマンド行または IDE のどちらでも正しく動作しません。
6794338	リモートの Java CAPS リポジトリを操作しているときに、NetBeans IDE のパフォーマンスが低下します。
6736086	「data」をリポジトリ名の一部として使用できません。
6794581	プロジェクトに Web サービスとして公開された JCD が含まれる場合、「ポート情報が見つからない」の例外が発生します。これにより、Web サービスとして公開された JCD がもう一度呼び出されます。
6853915	UDDI レジストリの WSDL プロバイダの詳細を表示しようとすると、null ポインタ例外が発生します。
6857884	WSDL 接続エディタのツールボタンが表示されません。
6804467	SQL 2000 および SQL 2005 のストアードプロシージャの結果セットが常に 0 となり、WSDL ウィザードで編集できません。
6760541	JCD クライアントからの SSL 対応 Web サービスの呼び出しが、正しくない <code>ENDPOINT_ADDRESS_PROPERTY</code> を呼び出そうとして失敗します。
6756093	中国語または日本語のロケールで操作している場合、ビジネスプロセスの相互関係セットを作成できません。
6694020	中国語のロケールで作業している場合、Business Process Manager Editor で Use Correlations プロパティを設定できません。

課題ID	説明
6680585	AIX ドメインで、ログメッセージがログレベルに従って変化し、SOAP 応答が Business Process Manager プロジェクトの定義 WSDL ファイルに一致しません。
6855693	NetBeans で、外部から修正された BPM データベーススクリプトに対する変更を保存できません。
6681111	ビジネスプロセスを含むプロジェクトのビルドが、コードジェネレータ例外により失敗します。
6770863	ビジネスプロセスの JCD が例外をスローする場合、エラーが発生した JCD を Enterprise Manager が赤色で表示しません。
6727500	Worklist Manager に、Manager ロールを持つユーザーのタスクが表示されません。
6819654	Composite Page Designer のページフローを変更したあとに、変更内容を保存できません。
6833158	ポップアップウィンドウを閉じたあと、Composite Page Designer ページフローアプリケーションが応答を停止します。
6750082	asadmin コマンドを使用して、デフォルトのプロパティで JMS コネクタ以外の接続プールを作成すると、接続プールが GlassFish 管理コンソールの CAPS ノードに表示されません。
6818090	アダプタが CodeGenException をスローするときに、例外の原因に関する情報を表示せずに、コードの補完が無効になります。
6862156	5.0.5 プロジェクトをインポートしてバッチ eWay モジュールを移行しようとするとき、null ポインタ例外が発生します。
6762993	サーバーの応答性が低下したときに、バッチ SFTP アダプタが応答を停止します。get メソッドの実行速度が低下します。
6670570	バッチ FTP OTD を含むコラボレーションで、JCD テスターが動作しません。
6762992	アプリケーションサーバーの応答性が低下したときに、バッチ SFTP アダプタが応答を停止します。get メソッドを呼び出したときに、アダプタでも遅延が発生します。
6762418	Synchronization が接続マップで「no」に設定されている場合、バッチローカルファイル OTD の get メソッドが、post-transfer コマンドを実行しません。
6759950	1000 メッセージを処理したあと、バッチ SFTP プロジェクトが応答を停止し、ドメインのメインプロセスも応答を停止します。
6767112	バッチアダプタが指定したファイルを見つけれない場合、TargetFileNameIsPattern プロパティが false に設定されていると、FileNotFoundException が収集されません。
6790775	バッチ SFTP 外部アプリケーションを使用して Serv-U SFTP サーバーに接続する場合、接続が失敗し、SftpStatusException がスローされます。

課題 ID	説明
6757925	バッチローカルファイル外部アプリケーションが、UNC パスにドライブ文字を正しく付加しないため、アダプタは指定された場所にファイルを書き込むことができません。
6818519	MySecureShell SFTP サーバーに接続しているときに、バッチ SFTP 外部システムが例外をスローします。この解決策の一部として、クライアントで使用する SFTP プロトコルの最大バージョンとして SFTP バージョン 3 を設定します。
6877193	Adapter Development Kit に用意されているサンプルが正しく動作しません。
6869815	Adapter Development Kit のコンポーネントを使用して作成されたプロジェクトを、Java CAPS 6.2 で開けません。
6870286	Adapter Development Kit で作成されたアダプタの NBM ファイルをビルドできません。
6856357	Adapter Development Kit を使用して、カスタムアイコン (つまり、デフォルト以外の画像ファイル) を使用する新しいアダプタを作成すると、コード生成が失敗します。
6867425	Adapter Development Kit を使用して新しいアダプタを作成するときに、アダプタの SAR ファイルをビルドできません。
6814363	ストアドプロシージャから返された結果セットに、DB2 Connect Type 4 ドライバを使用してアクセスすると、null ポインタ例外が発生します。
6802229	Statement.setQueryTimeout メソッドは、メインフレームの DB2 ドライバでサポートされていません。
6772540 6772541 6771937	DB2、SQL Server、および Oracle への接続で、非常に長い遅延が断続的に発生します。
6835472	eMail アダプタを使用する BPEL プロジェクトで、実行時に NoClassDefFoundError:PersistentBeanMessageWrapper というエラーが発生します。
6750580	eMail アダプタが multipart/related メッセージを処理するときに、例外をスローして以降のメッセージを処理しません。
6771879	HTTP アダプタで、input.getRequest.getText の呼び出しに対して、メッセージにテキストが含まれている場合でも null が返されます。
6807060	HTTP アダプタで、post メソッドを呼び出すと null ポインタ例外がスローされます。
6770903	高負荷の状況で、HTTP アダプタが「Internal Server Error - 500」エラーを生成します。
6852307	HTTP アダプタサーバープロジェクトを基本認証で使用する場合、配備が失敗して例外が発生します。

課題ID	説明
6830725	JCD が Informix に接続する場合、Informix への接続が失われても JCD が再接続を行います。
6843990	Sun Java System Application Server が配備ターゲットの場合、LDAP アダプタの接続プール設定のプロパティが無視されます。
6855988	JBIブリッジプロジェクトを含む複合アプリケーションで、ビルドプロセスが失敗します。
6760943	JBIブリッジプロジェクトを含む複合アプリケーションを配備する場合に、アプリケーションサーバーが「インスタンスが見つからない」という例外をスローします。
6677837	Solaris 10 の zh_TW ロケール (繁体字中国語) でコネクタ接続プールを作成するときに、管理コンソールが応答を停止します。
6750562	JDBC/ODBC アダプタを使用して、IN および OUT パラメータを含む DB2 プロシージャを呼び出すときに、SQL エラーが発生します。この原因は、clearParameters メソッドです。
6781008	コマンド <code>asadmin extract-caps-application-configuration</code> が、WebSphere MQ アダプタで動作しません。
6841180	JDK 1.6 のバージョンを使用する場合、プロジェクトの EAR ファイルで <code>asadmin extract</code> コマンドおよび <code>asadmin import</code> コマンドを実行したあと、Oracle アダプタに対して Environment Override 機能が動作しません。
6744428	SAP eWay を含む 5.0.5 プロジェクトをインポートするときに、インポート処理が応答を停止し、手動で処理を終了する必要があります。
6856107	sapjco3.jar の下位互換性の課題により、SAP ウィザードでエラーが発生し、例外がスローされます。
6818117	SAP BAPI のグローバル RAR を JCo 3 のインバウンドモードで使用する場合、抽象メソッドのエラーが発生します。
6810843	SAP BAPI アダプタを非トランザクションモードまたはトランザクション (tRfc) モードで使用する場合、アダプタが自動コミットしません。
6795976	SAP BAPI OTD を再起動するときに、この OTD を使用する JCD が機能しなくなります。
6724617	SAP プロジェクトを ICAN 5.0.5 からインポートするときに、JCD が検証に失敗して、ビルドができません。
6739514	SAP IDoc ウィザードで、「IDoc をリスト」ボタンでシステム内のすべての IDoc が表示されません。
6772238	SAP IDoc ウィザードで、サポートされていないバージョンの SAP を選択できません。
6867277	TCP/IP アダプタプロジェクトが、NotSerializableException により失敗します。

課題 ID	説明
6696822	ビジネスプロセスでのデータベース列の並び順が、SQL Server OTD での並び順と異なります。
6775765	TCP/IP アダプタの <code>app.getSocket().getInputStream()</code> メソッドと <code>app.getSocket()</code> メソッドが、渡された最初の 1024 バイトを破棄します。
6795068	TCP/IP アダプタのポート番号が、ログに正しく記録されません(コンマが含まれる)。
6827513	一部の複合アプリケーションを配備するときに、無効な記述子のエラーが発生します。
6738915	同じサーバーで複数の HL7 プロジェクトが実行されている場合、HL7 接続でクラスキャスト例外が頻繁にスローされます。
6827513	TCP/IP HL7 アダプタをインストールすると、Release 6 からアップグレードされたプロジェクトは、「無効なアーカイブ記述子」のエラーにより配備に失敗します。
6798876	Java CAPS ではオートボックスがサポートされていますが、リポジトリベースのプロジェクトでコードが JCD 用にコンパイルされません。
6785947	配備される Unified Resource Adapter (URA) を使用するプロジェクトを配備すると、例外 <code>ClassNotFoundException</code> がスローされます。
6813161	すべてのユーザーの <code>userid</code> ディレクトリで、ECRC ファイルを同期する必要があります。このファイルは、NetBeans ホームディレクトリ内のいずれかの場所に保存する必要があります。
6718240	「日中に毎週」に設定すると、スケジューラが正しくない時刻に起動します。
6768527	アクセス制御リスト (ACL) をプロジェクトから削除できません。
6792243	NetBeans のユーザー管理機能を使用してユーザーを削除するときに、ACL が更新されないため、IDE を再起動したあともユーザーが存在したままになります。
6809565	配備プロファイルでスプレッドシートビューを選択すると、すべてのフィールドに「データが無効です」が表示されます。
6751202	バッチアダプタプロジェクトの配備および再配備中に、メモリー不足の例外が発生します。
6734521	範囲外のインデックスの例外により、論理ホストでランダムにエラーが発生します。
6794331	管理コンソールで「アプリケーションサーバー」、「モニター」タブ、「実行時」タブの順に選択したあと、「JVM」以外の「表示」オプションを選択すると、HTTP 404 エラーが発生します。
6824377	生成された WSDL ドキュメントが、SLL およびユーザートークンの要素を作成しません。

課題ID	説明
6858220	バージョン 5.0.5 からインポートされた Web サービスプロジェクトは、Release 6.2 でのビルドに失敗します。
6828690	トークンと SSL 接続を使用するときに、Web サービスがソケット例外をスローします。
6770349	dateTime 要素に「nil」があるため、Web サービス操作からの応答を解析できず、アンマーシャル処理の例外が発生します。
6691795	AIX で xsi:nil="true" というテキストを含む Web サービス要求を送信すると、エラーが発生します。
6780177	Web サービスのクライアント環境プロパティで 사용되는 LDAP 参照が、文字どおりに解釈されます。
6740199	Web サービスクライアントプロジェクトが、実行時に null ポインタ例外をスローします。
6799913	Web サービスの応答時間遅延。
6809678	SOAP 要求の XML 要素に含まれるエスケープ文字が、2 回エスケープされます。
6703921	複数の Web サービスが JCD から呼び出され、各 WSDL ドキュメントのターゲット名前空間が同じである場合、パッケージ名およびクラス名が一意でないため、プロジェクトをビルドできません。
6807530	Web サービスに nullable 型の要素を送信できません。
6737049	JCD から Web サービスを呼び出したあとに、SOAP フォルトメッセージを取得できません。
6810985	応答に値が空の datetime 要素が含まれている場合、外部 Web サービスの呼び出しが失敗します。

Master Data Management に関する対応済みの課題

次の表に、このリリースで対応されたマスターインデックスコンポーネントに関する課題の簡単な説明を示します。

TABLE 1 Sun Master Index (リポジトリ) に関する課題

課題ID	説明
6659613	キーのない子オブジェクトを使用するときに、SBR が一部の子オブジェクトを複製します。

TABLE 1 Sun Master Index (リポジトリ)に関する課題 (続き)

課題 ID	説明
6731913	<p>getEUID メソッドが、不適切な null ポインタ例外をスローします。このリリースでの修正により、getEUID は次のように動作します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 有効なファシリティと LID を指定した場合、getEUID は EUID を返します。 ■ 有効なファシリティと無効な LID を指定した場合、getEUID は null を返します。 ■ 有効なファシリティと必要な形式を満たしていない LID を指定した場合、getEUID は検証例外をスローします。 ■ 無効なファシリティを指定すると、getEUID は検証例外をスローします。
6699674	getEUID に渡す識別子が長すぎる場合、検証例外の代わりに null ポインタ例外がスローされます。
6807758	Master Index クライアントプロジェクトを実行するために、runed.bat を変更する必要があります。
6718625	EDM レポートの max-result-size プロパティの値が、デフォルト値の 100 で上書きされます。
6855160	NetBeans から、データベースまたは設定ファイルに変更を保存できません。
6799090	5.1.3 eView プロジェクトをインポートしたあと、クライアント配備プロファイルで Sun Master Index 外部アプリケーションが認識されません。
6697222	Enterprise Data Manager (EDM) で、二重引用符を含むフィールドが正しく表示されません。
6752758	Sun Master Patient Index をインストールすると、Master Patient Index プロジェクトの下に複数の eView.Person オブジェクトが作成されます。
6747936	潜在的重複の解決された日付が、Master Index データベースに保存されません。
6778606	クライアントが別の JVM から実行されると、MergeResult および TransactionObject オブジェクトの直列化は機能しません。
6825113	ObjectNode.equals(Object o) メソッドは、オブジェクトを比較するときにクラスを検証しないため、誤検出が発生します。
6875294	Master Index を JRE バージョン 1.5.0_14 を使用して実行する場合、初期化に関する問題が発生します。
6875297	EDM からマスターインデックスに 1 つ目のレコードを作成しようとしたときに、EJB 例外がスローされます。これは、JRE 1.5.0_14 で発生します。
6637511	EDM で新しいページを表示したときに、カーソルが正しい位置に表示されません。

TABLE 2 Sun Master Index に関する課題

課題 ID	説明
課題 160	Master Index からのアウトバウンドメッセージに、作成日と更新日の値がありません。
課題 189	現在、MIDM の監査ログで、日付としてタイムスタンプではなく作成日が表示されます。短時間に多数のトランザクションが発生する可能性があるため、タイムスタンプの方が有益です。
課題 212	追加したアドレスフィールドのテキストにアポストロフィが含まれている場合、フィールドを編集できません。
課題 219	「ソースレコードを編集」ウィンドウから表示した「情報」ダイアログボックスのパナーの一部が表示されません。
課題 222	生成された <code>outbound.xsd</code> ファイルが、NetBeans では使用できません。これに対処するために、次の行が追加されました。 <code>xmlns:tms="uri:PersonOutMsg"</code> <code>targetNamespace="uri:PersonOutMsg"</code>
課題 229	Master Index に対するトランザクションの再構築が不十分です。また、2つのトランザクションが同時に処理されるときに、タイムスタンプが2番目のトランザクションだけに使用され、例外が発生する場合があります。
課題 237	EPath パーサーが無効な文字を見つけたときに、「トランザクションの詳細」が表示されません。
課題 240	MIDM の複数のフィールドで同じコードリストが使用されている場合、生成された <code>codelist.sql</code> ファイルに、そのコードリストが複数回含まれます。これにより、スクリプトの実行時にエラーが発生します。
課題 255	<code>update.xml</code> を検証するために使用される <code>update.xsd</code> ファイルで、サバイバーカリキュレータの <code>system-fields</code> 要素にフィールドを指定することができません。
課題 257	編集不可として定義されたフィールドを、「ソースレコードを表示/編集」ウィンドウで編集できます。
課題 272	潜在的重複の解決された日付が、データベースに保存されません。
課題 278	アウトバウンド JMS メッセージ XML に名前空間がありません。
課題 287	「ソースレコード」ウィンドウで、子オブジェクトの「クリア」ボタンが正しく動作しません。
課題 293	Master Controller EJB のリモート呼び出しが、結果オブジェクトをクライアントでインスタンス化できないため、 <code>merge</code> メソッドで失敗します。
課題 295	大括弧で囲まれたデータにより、 <code>FieldDescriptor.validate</code> メソッドで検証エラーが発生します。

TABLE 2 Sun Master Index に関する課題 (続き)

課題 ID	説明
課題 298	フィールドに Long 型のデータが含まれる場合、テキストが次のレコードにまたがって表示されます。これを防ぐために、Long 型のデータフィールドには 20 文字しか表示されません。フィールドに 20 文字を超えるデータがある場合は、データの末尾に省略記号 (...) が表示されます。省略記号の上にマウスを移動すると、すべてのテキストが表示されます。
課題 304	生成された <code>outbound.xsd</code> ファイルで、SBR 要素に対して <code>maxOccurs="1"</code> が設定されています。一部のトランザクションタイプには 2 つの SBR 要素があります。
課題 309	「トランザクション」ウィンドウの「印刷」ボタンが、正しく表示されません。
課題 312	MIDM のトランザクション履歴が、Firefox 2.0.x で正しく動作しません。
課題 322	「トランザクション履歴」ページおよび「監査」ページで、システム ID とローカル ID が表示されるときに、ローカル ID が先に表示されます。ローカル ID の書式は選択したシステムに依存するため、システムフィールドが最初に表示されるべきです。
課題 324	MIDM には、長さが不定のローカル ID を指定できません。
課題 325	アウトバウンドメッセージをトリガーする EJB 呼び出しが完了したときに、トピック接続がクローズされません。この結果、オープンされた接続が多すぎる状態になります。処理例外がスローされます。
課題 332	更新可能でないフィールドが、Potential Duplicate レポートに表示されません。
課題 334	Master Index がアウトバウンドメッセージを生成するとき、削除済みのフラグが設定されている場合でも、削除された子オブジェクトがメッセージに含まれます。
課題 335	MDM プロジェクトを削除してビルドするとき、対応する EJB プロジェクトでプロパティがリセットされ、JAR ファイルの追加などのカスタム変更が削除されます。EJB プロジェクトはコンパイルされません。
課題 341	SQLException でエラーメッセージが表示されず、例外の原因が不明になる場合があります。
課題 344	SBY_N_MERGE データベーステーブルで、merged_euid 列にインデックスが必要です。
6682971	MIDM 検索ウィンドウで、範囲検索のフィールドの配列をより明確にする必要があります。
6708211	アンマージトランザクションのあと、レコードの履歴が正しく表示されません。
6710895	MIDM でレコードのトランザクション履歴を表示している間にレコードが更新された場合、表示されている情報が最新でないことを示すアラートが表示されません。

TABLE 2 Sun Master Index に関する課題 (続き)

課題 ID	説明
6858060	20 文字を超えるフィールド名を入力すると、Oracle の制限を警告するメッセージが表示されます。この制限は MySQL データベースにも存在しますが、MySQL には同じ制限がないため削除できます。
6700054	MIDM の「レコードの詳細」ページで、フィールドのラベルと値が似すぎています。
6703149	MIDM の「重複したレコード」ページで無効なローカル ID を入力すると、エラーメッセージが表示されます。エラーメッセージを閉じるときに、ローカル ID フィールドをクリックして修正することができず、「システム」フィールドが消去されます。
6829621	Sun Match Engine および TransactionObjectDB のマルチスレッドに関する課題の結果として、null ポインタ例外が発生します。

Java CAPS 6.2 の既知の課題

次の節では、このリリースでの既知の課題を説明します。課題を回避できる場合は、その方法についても説明しています。各節では、元になっている OpenESB プロジェクトの課題へのリンクを示しています。また、「CR」は課題の変更要求番号を表します。

アダプタに関する既知の課題

Sun アダプタに関する既知の課題を次に示します。

- CR 6676202

Oracle アダプタ (eWay) とその関連する環境を含む 5.1.0 プロジェクトをインポートする場合、外部システムの「環境プロパティ」ウィンドウの一覧に、アウトバウンド非トランザクションのプロパティが表示されません。これは、リリース 5.1.0 が非トランザクションメッセージングをサポートしないために発生します。

この課題を回避するには、インポートした環境で新しい Oracle 外部システムを作成および設定します。

- CR 6702711

MSMQ アダプタが接続プール機能を実装しました。これによりテンプレートが変更され、外部システムに対するプロパティが追加されました。

Java CAPS 5.1.3 以前のバージョンから MSMQ プロジェクトをインポートしてビルドする場合は、プロジェクトをビルドするために環境プロパティと接続マッププロパティを開く必要があります。

- CR 6674397

XA トランザクションの途中でアプリケーションサーバーが停止すると、データベーステーブルがロックします。

この課題を回避するには、データベースを再起動してロックを解除します。

- CR 6697220

HTTP、Siebel、および PeopleSoft アダプタのインバウンド設定に対して、LDAP サポートがありません。

- CR 6779560

HL7 V3 機能は、HL7 JCA ベースの EJB では使用できません。

- CR 6854684

正しい JAR ファイルをインストールするには、Oracle アプリケーションアダプタをインストールする前に Oracle アダプタをインストールする必要があります。Oracle アダプタは、標準の Java CAPS インストールでインストールされません。

- Adapter Development Kit は、グローバル RAR (JCA アダプタ) の作成をサポートしません。(CR 6876283)

- eWay Development Kit のバージョン 5.1.x を使用して作成された eWay は、Adapter Development Kit を使用して Java CAPS 6.x で作成し直す必要があります。

BPEL サービスエンジンに関する既知の課題

Note – BPEL SE の停止と再起動の課題については、“[JBI 管理に関する既知の課題](#)” on [page 50](#)を参照してください。

BPEL サービスエンジンに関する既知の課題を次に示します。

- **NetBeans の課題 148288** (http://www.netbeans.org/issues/show_bug.cgi?id=148288)

「ソースを削除」オプションを使用して BPEL プロジェクトを削除したあと、同じ名前を再利用して新しいプロジェクトを作成すると、新しく作成したプロジェクトの「プロパティ」ウィンドウを開くことができません。

この課題を回避するには、NetBeans IDE を停止して再起動します。

- **課題 555** (https://open-esb.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=555)

BPEL サービスエンジンは、Derby データベースに対して接続プールとデータソースの作成だけを実行できます。この機能は開発者の支援用で、その他のデータベースやクラスタでは使用できません。BPEL サービスエンジンは、サポートされるすべてのデータベースに対して持続的テーブルを自動的に作成しますが、この機能はスタンドアロンモードのみで動作します。クラスタモードでは使用できません。BPEL サービスエンジンをインストールする前に、接続プール、データソース、およびテーブルを作成する場合は、持続性を有効にしてコンポーネントをインストールします。それ以外の場合、クラスタへのインストールは失敗します。

テーブルが自動的に作成されない課題を回避するには、テーブルをスタンドアロンモードで作成したあと、BPEL SE をクラスタに追加します。

- **課題 1802** (https://open-esb.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=1802)

入力メッセージにオプションのノードがない場合、`invalidVariable` 例外がスローされます。ノードは必須でないため、この例外は適切ではありません。この原因は、BPEL のスキーマ型の `case` および `message` 変数に関する課題です。

Composite Page Designer に関する既知の課題

Composite Page Designer に関する既知の課題を次に示します。

- CR 6624231

チュートリアルにあるユーザーが生成したポートレットは、アプリケーションサーバーの Web コンテナに配備されたときに (Solaris 10 x86 ゾーンを使用して) 動作しますが、Firefox で正しくレンダリングされません。

この課題を回避するには、ポートレットを `thick` ではなく `thin` に変更します。完全な課題の解決にはなりません、表示されやすくなります。

Data Integrator サービスエンジンに関する既知の課題

Sun Data Integrator サービスエンジンに関する既知の課題を次に示します。

- 以前の Java CAPS リリースで作成して Java CAPS 6.2 に移行した、既存の eTL/Data Integrator プロジェクト (Modern) に互換性の課題があります。この課題を回避するには、プロジェクトごとに `build-impl.xml` ファイルを更新する必要があります。ファイルは、`ProjectHome/nbproject` にあります。プロジェクトごとに、次の 2 つのエントリを追加します。

```
include name="org-openide-io.jar"/
include name="org.openide-explorer.jar"/
```

- CR 6681744

コマンド行を使用して eTL 5.1.x プロジェクトを Java CAPS 6 にインポートすると、例外が発生します。

5.1.x プロジェクトをインポートする場合

は、`NB_HOME`、`DB_DRIVERS_HOME`、`ETL_MIGRATION_CLASSPATH`、および `DB_DRIVER_PATH` 変数を、次のように設定してください。eTL コラボレーションにデータベーステーブルが含まれる場合は、引き続き例外が発生します。フラットファイルを使用する場合は、課題は発生しません。データベーステーブルの課題を回避するには、リポジトリを再起動したあと、`import` コマンドを再実行します。または、NetBeans GUI を使用してプロジェクトをインポートします。

```
set NB_HOME=C:/JavaCAPS6/netbeans
set DB_DRIVERS_HOME=C:/JavaCAPS6/.netbeans/caps/modules/ext
set ETL_MIGRATION_CLASSPATH=
  %NB_HOME%/ide9/modules/org-netbeans-modules-project-ant.jar;

  %NB_HOME%/ide9/modules/org-netbeans-modules-projectuiapi.jar;
  %NB_HOME%/ide9/modules/org-netbeans-modules-projectapi.jar;
  %NB_HOME%/platform8\lib\org-openide-util.jar;
```

```

%NB_HOME%/soa2/modules/org-netbeans-modules-etl-editor.jar;
%NB_HOME%/soa2/modules/org-netbeans-modules-etl-project.jar;
%NB_HOME%/platform8\modules\org-openide-dialogs.jar;
%NB_HOME%/platform8\core\org-openide-fileSystems.jar;
%NB_HOME%/ide9\modules\org-netbeans-modules-db.jar;
%NB_HOME%/platform8\modules\org-openide-nodes.jar;
%NB_HOME%/platform8\modules\org-openide-text.jar;
%NB_HOME%/xml2\modules\org-netbeans-modules-xml-validation.jar;
%NB_HOME%/ide9\modules\org-netbeans-api-xml.jar;
%NB_HOME%/soa2\modules\org-netbeans-modules-soa-ui.jar;
%NB_HOME%\platform8\modules\org-openide-loaders.jar;
%NB_HOME%/platform8\modules\org-openide-windows.jar;
%NB_HOME%/platform8\modules\org-openide-awt.jar;
%NB_HOME%/xml2\modules\org-netbeans-modules-xml-xam-ui.jar;
%NB_HOME%/platform8\modules\org-openide-options.jar;

```

```

set DB_DRIVER_PATH=%DB_DRIVERS_HOME%/db2adapter/db2builder.jar;
%DB_DRIVERS_HOME%/stc/ewaycommon/com.stc.ewayrepositoryapi.jar;
%DB_DRIVERS_HOME%/../com-stc-bpms-common.jar;
%DB_DRIVERS_HOME%/../com-stc-log4j.jar;
%DB_DRIVERS_HOME%/otd/com.stc.otd.fwbuildapi.jar;
%DB_DRIVERS_HOME%/stc/ewaycommon/com.stc.ewayutils.jar;
%DB_DRIVERS_HOME%\oracleadapter\oraclebuilder.jar;
%DB_DRIVERS_HOME%/sqlserveradapter/sqlserverbuilder.jar;
%DB_DRIVERS_HOME%/sybaseadapter/sybasebuilder.jar;

```

■ CR 6694617

テーブルが固定幅の eTL 5.1.x プロジェクトをインポートすると、実行時にエラーが発生します。実行時テストでは、`java.sql.SQLException` が発生します。

この課題を回避するには、インポートした eTL プロジェクトの実行が `java.sql.SQLException: LOADTYPE property required in organization clause` の例外によって失敗するかどうかを確認します。実行に失敗する場合は、ETL コラボレーションファイルを開き、使用されているフラットファイルテーブルごとに `ORGP_PROP_LOADTYPE` 属性がリストされていることを確認します。`ORGP_PROP_LOADTYPE` 属性がない場合は、属性を手動で追加してコラボレーションを保存し、プロジェクトを再実行します。次に例を示します。

```

<attr name="ORGP_PROP_LOADTYPE" type="java.lang.String" value="FIXEDWIDTH" />
<attr name="ORGP_PROP_LOADTYPE" type="java.lang.String" value="DELIMITED" />

```

■ CR 6705843

eTL 移行ツールを使用してアップグレードし、JBI ブリッジを使用するように変更した 5.1.x eTL プロジェクトで、コマンド行のコードジェネレータが EAR ファイルの作成に失敗します。

この課題を回避するには、移行した Data Integrator プロジェクトを、NetBeans GUI を使用してビルドおよび配備します。

■ CR 6707522

ロガーのプロパティーで `sun-etl-engine` 設定を変更しても、サーバーログファイルのログレベルおよびメッセージレベルが変更されません。

- CR 6669876

5.1.3 eTL プロジェクトを Java CAPS 6.x 環境にインポートして、ETL コラボレーションを変更したあと、プロジェクトを再インポートすると、ETL コラボレーションが更新されません。つまり、インポート処理によって上書きされているはずの、前に行なった変更がそのまま表示されます。

これを回避するには、次のいずれかの操作を行います。

- NetBeans を再起動します。ETL コラボレーションを開くと、元のインポートしたバージョンになっています。
- プロジェクトを再インポートする前に、「プロジェクト」ウィンドウから ETL モジュールを削除したあと、手動で `JavaCAPSHome/.netbeans/caps/eTL/Imported Projects/ ProjectName` ディレクトリを削除します。

Data Mashup サービスエンジンに関する既知の課題

Data Mashup サービスエンジンに関する既知の課題を次に示します。

- Open-DM-DS の課題 161 (https://open-dm-ds.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=161)

WHERE 節に `current_timestamp` 関数を使用して、Axion データベースに問い合わせるときに、解析の例外が発生します。

この課題を回避するには、代わりに `now` 関数を使用します。

次に例を示します。

```
WHERE DEPARTMENT.DEPTID=EMPLOYEES.DEPTID and EMPLOYEES.DEPTDATE <= NOW()
```

- Open-DM-DS の課題 165 (https://open-dm-ds.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=165)

DataMashup プロジェクトの「コラボレーションプロパティー」ウィンドウで、「応答タイプ」フィールドがドロップダウンフィールドではなくなりました。次の値を指定できます。

- WebRowset
- RelationalMap
- JSON

データベース接続コンポーネントに関する既知の課題

データベース接続コンポーネントに関する既知の課題を次に示します。

- **課題 431** (https://open-esb.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=431)
Oracle用のojdbc5.jarドライバは、準備された文をサポートしません。次のエラーメッセージが表示されます。

```
java.sql.SQLException: Unsupported feature
```

結果セットは設定されず、データ型にかかわらず、すべてのパラメータに対してjava.lang.stringが選択されます。
この課題を回避するには、ojdbc5.jarの代わりにDataDirectドライバを使用します。
- **課題 453** (https://open-esb.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=453)
準備されたinsert文に指定した引数が多すぎる場合に、エラーメッセージが表示されません。たとえば、3列のテーブルにinsert into table values(?,?,?,?)を実行すると、実行時例外が発生し、パラメータは追加されません。
- **課題 499** (https://open-esb.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=499)
準備された文を使用してパラメータを更新または削除した場合、実際のデータ型に関係なく、結果にデフォルトのjava.lang.Stringデータ型が表示されます。これは、Oracle用JDBCドライバのDataDirect接続が、リテラルとパラメータ化引数が混在したupdate文に対して、パラメータメタデータ情報を返さないことが原因です。
この課題を回避するには、生成されたXSDのパラメータのデータ型を手動で変更します。
- **課題 517** (https://open-esb.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=517)
特殊文字を使用した要素名を誤って解釈するのを避けるために、組み込み関数で別名を必要とします。たとえば、準備された文のselect avg(float) from table where number in(...);では、次のエラーが発生します。

```
ERROR: s4s-att-invalid-value: Invalid attribute value for 'name' in element 'element'. Recorded reason: cvc-datatype-valid.1.2.1: 'AVG(NUMBER)' is not a valid value for 'NCName'.
```

この課題を回避するには、関数の別名を使用します。たとえば、select avg(float) avg from table where number in(...);を使用します。
- **課題 533** (https://open-esb.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=533)

DataDirect ドライバが正しいメタデータを返しません。結果的に、ストアドプロシージャの出力パラメータが、正しくない結果セットとなります。これはドライバのエラーで、正しくないパラメータを返すメタデータ呼び出し `getProcedureColumns()` に関して、DataDirect の作業チケット W809210001 が提出されています。

- **課題 866** (https://open-esb.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=866)

`sqljdbc.jar` ドライバを使用して、SQL Server 2005 で日時の値を挿入できません。これは、空白文字と括弧に関する構文エラーが原因です。

解決方法については、[http://forums.microsoft.com/technet/ShowPost.aspx?siteid=17\[amp \]amp;postid=4061403](http://forums.microsoft.com/technet/ShowPost.aspx?siteid=17[amp]amp;postid=4061403) を参照してください。

- **課題 1087** (https://open-esb.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=1087)

ストアドプロシージャが、BLOB (Binary Large Object) データ型をサポートしません。プロシージャはエラーを生成せずに実行されますが、`select` 文はいずれの BLOB データも処理できません。

- **課題 1747** (https://open-esb.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=1747)

「レコード数」オプションが小さい値に設定されたクラスタ環境で、ポーリングに Derby データベースを使用する場合、次の例外がスローされ、接続プールを使用できなくなります。

```
java.sql.SQLException: Connection closed.
```

この課題を回避するには、ポーリングごとのレコード数を大きい値に設定します (たとえば、1000 レコードで 100 など)。別の回避方法として、すべてのクラスタ関連テーブルを同じデータベースに作成することもできます。

- **課題 1803** (https://open-esb.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=1803)

データベース BC が複数のサーバーにまたがるクラスタ環境に実装されている場合、ポーリングテーブルのメッセージの状態が、別のインスタンス (または、再開した同じインスタンス) で処理中のメッセージがピックアップされるのを防ぐため、フェイルオーバーが機能しない場合があります。

この課題を回避するには、ポーリングテーブルで状態が「In progress」または「SENT」のレコードを手動で削除します。これにより、実行中のインスタンスがメッセージをピックアップして再処理できるようになります。

- **課題 2269 (および CR 6882656)** (https://open-esb.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=2269)

持続性が有効なビジネスプロセスでデータベース BC が使用されている場合、ストアドプロシージャが失敗して、例外がスローされます。

- ウィザードを使用してデータベース BC WSDL ドキュメントを作成する場合、`table_name.xsd` という名前の XSD ファイルも作成されます。同じ名前の XSD ファイルがすでに存在する場合は、上書きされます。

この課題を回避するには、既存の XSD ファイルと異なるテーブル名を指定します。

Enterprise Service Bus に関する既知の課題

Enterprise Service Bus に関する既知の課題を次に示します。

- CR 6670699
Firefox を使用している場合、接続マップまたはビジネスプロセスが表示可能なキャンバスより大きいときに、スクロールバーが表示されません。表示可能な領域外にある接続マップまたはビジネスプロセスを表示できません。
この課題を回避するには、接続マップまたはビジネスプロセスのサイズを元のフレームに収まるように変更します。
- CR 6699303
新しい CAPS リポジトリブランチを作成するときに、NetBeans が `SocketTimeOutException` をスローします。
これを回避するには、リポジトリ接続のタイムアウトを 60000 に増やします。
- CR 6700931
パスワードダイジェストを使用するユーザー名トークンがサポートされません。プロパティーを開いて、ユーザー名トークンのパスワードダイジェストをテストできません。このサポートは、NetBeans、WSIT、および GlassFish セキュリティーの間で、完全に統合されていません。
- CR 6706429
アラート管理の持続性を有効にして、ドメインを再起動していない場合、持続的データベースに生成されるアラートが Enterprise Manager に届きません。
この課題を回避するには、アラート管理の持続性を有効にしたあと、ドメインを再起動します。
- CR 6706921
`env.sh` コマンドが、UNIX で `PATH` を設定しません。このコマンドは、サンプルやその他の実行可能ファイルを使用できるように、`PATH=$ENGINE_HOME/BIN:$JAVA_HOME/BIN:$PATH` のような設定を行います。
この課題を回避するには、パスを手動で設定します。
- CR 6708514
WSDL ファイルをインポートした Java CAPS プロジェクトが、JCD の読み込み時に失敗します (Red Hat Enterprise Linux 5 の場合)。
- CR 6695408

OTD ライブラリに対するトランザクションで、OTD テスターが起動しません。OTD テスターは、依存 JAR ファイル (特に、Forest API ベースの OTD および B2B OTD の JAR ファイル) を正しく処理しません。

この課題を回避するには、`netbeans.conf` を次の手順で変更します。

1. `JavaCAPSHome/netbeans/etc` に移動し、`netbeans.conf` をテキストエディタで開きます。
2. `netbeans_default_options=` で始まっている行を探し、行の末尾に次のオプションを追加します。

```
--cp:p JavaCAPSHome/.netbeans/caps/modules/com-stc-antlrimpl.jar
```

`JavaCAPSHome` は、Java CAPS ホームディレクトリの場所です。

Tip– このオプションは、行末の二重引用符の内側に追加してください。

これにより、NetBeans は IDE のクラスパスの前に `com-stc-antlrimpl.jar` を附加し、この JAR ファイルが提供する antlr クラス (B2B OTD ライブラリが依存するクラス) が、NetBeans のデフォルトの antlr よりも優先されるようになります。

3. 次のオプションを `netbeans_default_options=` プロパティに追加します。

```
-J-Dantlrmaxaltblklines=3000
```

ファイル接続コンポーネントに関する既知の課題

ファイル接続コンポーネントに関する既知の課題を次に示します。

- ファイル BC は、UTF-8 形式のエンコーディングのみをサポートします。エンコーディングの形式が UTF-8 以外である場合、ファイル BC は入力データの読み取りに失敗します。ただし、任意のエンコーディングスタイル (UTF または UTF-8 以外) のデータとバイナリデータは、どちらも添付ファイルとして転送可能です。

UTF-8 の制限は次の方法で回避できます。

- UTF-8 以外のデータを読み取る場合は、ファイル BC に入力する前に、カスタムエンコーダを使用してデータを UTF-8 形式に変換し、変換したデータをファイル BC の入力として渡します。
- UTF-8 以外のデータを書き込む場合は、ファイル BC からの出力をカスタムエンコーダにルーティングし、データを UTF-8 から指定した形式に変換します。詳細は、[Designing Custom Encoders](#) を参照してください。
- **課題 1206** (https://open-esb.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=1206)

Windows オペレーティングシステムで、ファイル BC が XML テキストをバイトに変換するときに、改行文字ごとにキャリッジリターンが追加されます。たとえば、`\r\n` が `\r\r\n` に変換されます。

- **課題 2025** (https://open-esb.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=2025)
ファイル BC をオンデマンドモードで使用し、assign アクティビティーに対して標準メッセージプロパティーの値を設定する場合、ReadOut ノードのプロパティー値を設定すると、この値はアプリケーションで使用されません。ReadIn ノードの値を設定する必要があります。

FTP 接続コンポーネントに関する既知の課題

FTP 接続コンポーネントに関する既知の課題を次に示します。

- **課題 796** (https://open-esb.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=796)
messageCorrelate 属性が FTP WSDL の ftp:transfer 要素で **true** に設定されている場合、FTP BC は UUID を ID に使用して要求を応答に関連付けることができるように、入力ファイルが固定パターン (req.UUID) に一致すると予想します。
- **課題 828** (https://open-esb.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=828)
FTP BC プロパティーの値が無効なプロジェクトは、コマンド行のビルド (ant タスク) を使用するとビルドできますが、NetBeans では検証に失敗してビルドできません。これは、プロジェクトをビルドするときに NetBeans で自動的に実行される一部の検証が、コマンド行のビルド (ant タスク) では実行されないことが原因です。たとえば、FTP BC ポーリング (pollIntervalMillis) の値が正以外の値または整数以外に設定されたプロジェクトは、NetBeans では検証に失敗しますが、ant コマンドを使用するとビルドできます。
- **課題 832** (https://open-esb.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=832)
すべてのオペレーティングシステムで、preReceiveLocation (sendTo や receiveFrom など) に指定するパスコンポーネントの区切り文字は、スラッシュ (/) です。スラッシュの代わりにバックスラッシュを使用すると、次のようなエラーが発生します。

FTPBC-E004026.

Exception when preparing ftp connection parameters in inbound processor.
java.lang.Exception:

FTPBC-E004019.

No directory name found in PreReceiveLocation [...] when PreReceiveCommand is RENAME or COPY.
- **課題 1926** (https://open-esb.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=1926)
append 属性が WSDL ファイルの file:transfer 要素で **true** に設定されている場合、FTP BC は情報をファイルの末尾に追加せずに、既存の出力ファイルを上書きします。

IEP サービスエンジンに関する既知の課題

IEP サービスエンジンに関する既知の課題を次に示します。

- **課題 449** (https://open-esb.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=449)

IEP データベースプラットフォームとして Oracle を使用する場合、Oracle JDBC ドライバのバージョン 10.2.0.4.0 以上を使用する必要があります。Oracle 9.2 に含まれているデフォルトのドライバ (ojdbc14.jar) は、バージョン 9.0.2.0.0 で、IEP では動作しません。使用しているドライバのバージョンを確認するには、ドライバ JAR ファイルの manifest.mf ファイルを確認してください。

- **OJC の課題 608** (https://open-jbi-components.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=608)

asadmin stop-instance コマンドを使用してクラスタインスタンスを停止するときに、現在実行中の IEP プロセスが動作中のインスタンスにフェイルオーバーしません。これは、停止プロセス中に呼び出されるメソッドの順序が原因です。

この課題を回避するには、サービスアセンブリを停止して再起動します。

- **課題 1083** (https://open-esb.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=1083)

IEP SE は、高可用性モードおよびフェイルオーバーモードで、意図したとおりに動作しません。IEP SE の 2 つのインスタンスがある場合に、プロジェクトをインスタンス 1 に配備したあとインスタンス 2 に配備すると、インスタンス 1 は通常の状態での出力を生成します。インスタンス 2 からプロジェクトの配備を取り消したあと、インスタンス 1 から配備を取り消し、続いてインスタンス 2 にプロジェクトを再配備してから、インスタンス 1 に再配備した場合、インスタンス 2 が出力を生成するべきです。実際には、インスタンス 1 とインスタンス 2 の両方が出力を生成します。

この課題を回避するには、インスタンス 2 で IEP SE を再起動します。

- **課題 1184** (https://open-esb.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=1184)

この課題は、以前のバージョンの Java CAPS からアップグレードする場合にのみ適用されます。パッチを適用して、GlassFish アプリケーションサーバーを起動したあと、IEP サービスエンジンが Java DB に接続できないか、iepsDB が存在しないことを示す例外を返します。

この課題を回避するには、次の手順を実行して、IEP サービスエンジンをアンインストールしたあとに再インストールします。

1. NetBeans IDE の「サービス」ウィンドウで、「サーバー」、「GlassFish V2」、「JBI」、「サービスエンジン」の順に展開します。
2. 「sun-iep-engine」を右クリックし、「アンインストール」を選択します。IEP サービスエンジンがアンインストールされます。
3. GlassFish 管理コンソールを起動します。
4. 左側のナビゲーションパネルで、「リソース」、「JDBC」の順に展開し、「JDBC リソース」を選択します。

5. jdbc/iepsDerbyXA および jdbc/iepsDerbyNonXA という名前のリソースを削除します。
 6. iepseDB ディレクトリが install-dir/.netbeans-derby ディレクトリにある場合は、NetBeans IDE からログアウトして、iepsDB ディレクトリを削除します。
 7. NetBeans IDE を再起動したあと、GlassFish アプリケーションサーバーを再起動します。
 8. 「NetBeans サービス」ウィンドウで、「サービスエンジン」を右クリックし、「インストールして起動」を選択します。
 9. 表示されたウィンドウで、install-dir/appserver/domains/domain1/jbi/autoinstall を参照し、iepserviceengine.jar ファイルを選択します。
 10. デフォルトの設定をそのまま使用して、「インストール」をクリックします。IEP サービスエンジンがインストールされ、Java DB (iepsDB) に正常に接続されます。
- **課題 1187** (https://open-esb.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=1187)
IEP データベースが Oracle を使用するように設定されている場合、Union 演算子が意図したとおりに動作しません。あるテストケースでは、2つの Relation Aggregator 演算子が Union 演算子に結合されました。出力には7つのイベントが含まれると予想されました。実際には、出力には3つのイベントしか含まれませんでした。別のテストケースでは、2つの Time Based Window 演算子が Union 演算子に結合されました。Time Based Window 演算子の一方で受信したイベントごとに、Union 演算子は期待どおりに計算されます。ただし、Time Based Window 演算子が期限切れになるときに、Union 演算子が再計算されます。これは正しくないように思われます。
 - **課題 1311** (https://open-esb.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=1311)
関係集約機能は、さまざまな演算子で期待どおりに動作せず、出力のイベント数が正しくありません。たとえば、Oracle では無効な集約が削除されません。Derby では、集約が変更されていない場合にも集約が更新され、余分なイベントが発生する場合があります。
 - **課題 1519** (https://open-esb.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=1519)
Solaris SPARC で、Oracle データベースを使用して IEP SE を実行しているときに、接続エラーが発生する場合があります。
この課題を回避するには、GlassFish サーバーを再起動します。
 - **課題 1882** (https://open-esb.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=1882)
Solaris SPARC で IEP SE を実行して、Derby データベースを使用している場合、一部のイベントが処理されません。これは、IEP SE が現在のタイムスタンプの取得に使用する、JDK のメソッドに関する課題が原因です。
この課題が発生しているかどうかを確認するには、IEP アプリケーションにイベントを送信して、タイムスタンプを確認します。

- **課題 1986** (https://open-esb.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=1986)

IEP SE を Oracle 用に設定していて、RelationStream 演算子を使用して入力リレーションからのイベントを取得するときに、重複するイベントが生成される場合があります。

この課題を回避するには、RelationStream の代わりに InsertStream 演算子を使用します。別の方法として、RelationStream 演算子のあとに Distinct 演算子を使用し、重複をフィルタ処理します。これらの方法は、どちらも RelationStream を完全に置き換えることはできません。

- IEP サービスエンジンは、インストール中に接続プールと JDBC リソースを作成します。この自動作成は、IEP サービスエンジンを GlassFish ドメイン管理サーバー (DAS) のインスタンスにインストールする場合にのみ実行されます。IEP サービスエンジンを GlassFish のスタンドアロンインスタンスにインストールする場合、接続プールと JDBC リソースは作成されません。

この課題を回避するには、接続プールと JDBC リソースを手動で作成したあと、IEP サービスエンジンをインストールします。

- 1 つの IEP モジュールプロジェクトに複数のイベントプロセッサが含まれる場合があります。各イベントプロセッサに対して 1 つのデータベース接続が作成され、開いた状態が維持されます。したがって、各イベントプロセッサは専用のデータベース接続を使用します。イベントプロセッサが停止すると (たとえば、複合アプリケーションが停止した場合)、この接続は解放されます。IEP SE はほかのタスクでもデータベース接続を使用するため、接続プールの最大プールサイズは、IEP SE で動作しているイベントプロセッサの数の 10 倍にしてください。
- デフォルトでは、IEP SE は IEP プロセスドキュメントごとに WSDL ドキュメントを生成し、IEP プロセスが編集されるたびに WSDL ドキュメントを再生成します。デフォルトでは、接続とサービスはこの WSDL に生成され、配備時に正しく機能させるために、通常はこれらの要素を編集する必要があります。ただし、これらの WSDL ドキュメントを編集する場合、WSDL ドキュメントが生成されるごとに、編集内容がデフォルト値で上書きされます。

CASA エディタで作成された接続とサービスは、IEP WSDL ドキュメントが再生成されるときに影響を受けません。ただし、IEP WSDL ファイルを複製して、生成された接続とサービスを CASA エディタでカスタマイズしないでください。生成された WSDL ファイルに対する更新が、複製後に更新されなくなります。時間の経過とともに、接続に配備した複製および編集した WSDL が、IEP サービスエンジンに配備した WSDL ドキュメントと矛盾するようになります。繰り返し型の開発で複合アプリケーションと IEP プロジェクトを設定する場合は、次の手順の使用を検討してください。

1. IEP モジュールプロジェクトを定義します。
2. `project.properties` ファイルで `always.generate.abstract.wsdl` フラグを `true` に設定して、IEP が生成した WSDL ファイルでの具象構成要素 (接続とサービス) の生成を無効にします。
3. IEP モジュールプロジェクトをビルドします。

4. IEP モジュールプロジェクトを新しい複合アプリケーションプロジェクトに追加して、プロジェクトをビルドします。
5. 接続コンポーネントと接続を、CASA エディタを使用して定義します。複合アプリケーションのテスト機能を使用するには、SOAP 入力とファイル出力の接続をテスト環境に適切となるように定義します。
6. 複合アプリケーションをビルドして配備します。
7. テストを実行します。
8. IEP モジュールプロジェクトを変更し、CASA エディタで接続コンポーネントとサービスの設定を必要に応じて調整し、複合アプリケーションを再ビルドおよび再配備します。テストの実行を繰り返します。

JAXB 用の Java アプリケーションプロジェクトに関する既知の課題

JAXB を使用する Java アプリケーションプロジェクトに関する既知の課題を次に示します。

- [NetBeans の課題 163169 \(http://www.netbeans.org/issues/show_bug.cgi?id=163169\)](http://www.netbeans.org/issues/show_bug.cgi?id=163169)

JAXB 用の Java アプリケーションプロジェクトでは、JAXB クラスファイルが実行時に削除され、アプリケーションの実行が失敗します。

この課題を回避するには、「プロジェクトプロパティ」ウィンドウで「保存してコンパイル」の選択を解除します。「保存してコンパイル」にアクセスするには、「ビルド」、「プロパティをコンパイルしています」ノードの順に選択します。

JBIブリッジに関する既知の課題

JBIブリッジを含むプロジェクトに関する既知の課題を次に示します。

- CR 6683017

JCD が JBI ブリッジを呼び出すときに、リポジトリベースのプロジェクトと JBI ブリッジプロジェクトの両方が正しくビルドされていても、複合アプリケーションの配備が失敗します。配備で、「ERROR: Starting service assembly failed」のエラーメッセージが表示されます。

この課題を回避するには、JBI マッパーを使用してサービスアセンブリを手動で起動します。

- CR 6646537

JBI ブリッジが、抽象 WSDL で動作しません。JBI ブリッジのビルドプロセスは、ビジネスプロセスが使用する WSDL ファイルに接続とサービスのセクションが含まれている場合のみ動作します。

この課題を回避するには、JBI WSDL エディタを使用して WSDL ファイルを編集します。適切な接続情報を追加して、WSDL ファイルをリポジトリベースのプロジェクトに再インポートします。

- CR 6654477

シングルパートの入力および出力リテラルは、JBI ブリッジ全体の BPEL 1.0 および BPEL 2.0 エンジン間でサポートされません。

LDAP 接続コンポーネントに関する既知の課題

LDAP 接続コンポーネントに関する既知の課題を次に示します。

- 課題 804 (https://open-esb.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=804)

認証タイプが LDAP サーバーとクライアント間で一致していない場合、AuthenticationNotSupportedException が発生します。たとえば、認証を行わないか単純な認証 (強力でない認証) を処理する DSEE 6 サーバーで、クライアントが強力な SSL 認証を指定すると、エラーが発生します。

- 課題 924 (https://open-esb.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=924)

無効なルート DN (dc=sun,dc=com の代わりに dc=sun など) が指定されている場合、設計時の検証が実行されません。これにより、ユーザーは LDAP WSDL ファイルを正しくない値で (不正に) 作成できます。このようなプロジェクトは、実行時に No such object エラーメッセージが表示されて失敗します。

Sun Master Index に関する既知の課題

Sun Master Index に関する既知の課題を次に示します。

- CR 6718625
EDM レポートに含まれるフィールドが、EDM で表示されるように設定されていない場合、レポートは生成されません。
この課題を回避するには、EDM に表示しないフィールドをレポートに含めないようにしてください。
- CR 6867017
Master Index アプリケーションを NetBeans から再配備するときに、配備先に対する更新(たとえば、ホスト名やポート番号)が更新されません。
この課題を回避するには、GlassFish 管理コンソールまたはコマンド行から配備を行います。NetBeans から配備するには、テキストエディタで *NetBeansProjects/ProjectName/nbproject/private/private.properties* を開き、`j2ee.server.instance` プロパティを変更します。次に例を示します。

```
j2ee.server.instance=[C:\\CAPS62\\  
\\appserver]deployer:Sun:AppServer::localhost:21048
```
- CR 6757529
Sun Match Engine で、日付の比較機能(dY、dM、dD など)が相対的な時間の計算ではなく直接的な文字列比較として使用されている場合、比較機能は正しく機能しません。つまり、`y` オプションは正しい値を返しません。
これを回避するには、日付比較機能を直接的な文字列比較(`n` オプション)を指定して使用してください。

XSLT サービスエンジンに関する既知の課題

XSLT サービスエンジンに関する既知の課題を次に示します。

- 課題 1631 (https://open-esb.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=1631)

HTTP/SOAP 接続がある XSLT プロジェクトを実行しているときに、サーバーログに SEVERE エラーが記録されます。エラーは次のとおりです。

```
Unable to create envelope from given source because the root element is not named Envelope
```

これは間違ったログメッセージで、XSLT プロジェクトの実行には干渉しません。

メッセージがログに記録されるのを防ぐには、XSLT SE の「SAAJ ロガー」を「OFF」に設定します。

- NetBeans の課題 161321 (http://www.netbeans.org/issues/show_bug.cgi?id=161321)

XML エディタでテキストを変更する場合、「検証」をクリックしても、コードのコンパイルおよび検証の前に変更が保存されません。XML を検証する前に、「すべて保存」をクリックする必要があります。

- 課題 1760 (https://open-esb.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=1760) および NetBeans の課題 162869 (http://www.netbeans.org/issues/show_bug.cgi?id=162869)

XSLT SE は catalog.xml をサポートしません。このファイルは、正しい参照リソースのサポートに必要です。たとえば、別のプロジェクトからプロジェクト参照を使用して WSDL ドキュメントを参照している場合、XSLT プロジェクトの配備が失敗します。

複合アプリケーションに関する既知の課題

複合アプリケーション (CA) プロジェクトに関する既知の課題を次に示します。

- [NetBeans の課題 148024 \(http://www.netbeans.org/issues/show_bug.cgi?id=148024\)](http://www.netbeans.org/issues/show_bug.cgi?id=148024)

GlassFish で SOAP 1.2 がサポートされている場合でも、SOAP12 接続を使用してテストケースを作成できません。

この課題を回避するには、SOAP12 の代わりに SOAP 接続を使用します。
- [NetBeans の課題 152455 \(現在は 138971\) \(http://www.netbeans.org/issues/show_bug.cgi?id=152455\)](http://www.netbeans.org/issues/show_bug.cgi?id=152455)

CASA エディタの設計キャンバスが特定のサイズのときに、スクロールバーが表示と非表示を繰り返し、CPU の使用率が 100% になります。

この課題を回避するには、ウィンドウまたは CASA エディタの設計キャンバスのサイズを、スクロールバーが表示されないように変更します。
- [NetBeans の課題 152449 \(http://www.netbeans.org/issues/show_bug.cgi?id=152449\)](http://www.netbeans.org/issues/show_bug.cgi?id=152449)

新しいプロジェクトタイプをインストールする場合、複合アプリケーションプロジェクトが最初にサービスエンジンのタイプを判断できず、サービスユニットを配備できません。次のエラーメッセージが表示されます。

```
Cannot add JBI module project_type.  
Its target component type engine_name is unknown.
```

この課題を回避するには、NetBeans IDE を停止して再起動します。
- [NetBeans の課題 153537 \(http://www.netbeans.org/issues/show_bug.cgi?id=153537\)](http://www.netbeans.org/issues/show_bug.cgi?id=153537)

サービスユニット (SU) を削除したあと、複合アプリケーションプロジェクトを再ビルドできません。

この課題を回避するには、`build-impl.xml` ファイルを手動で編集し、削除した SU を操作するセクションをすべて削除します。

JBI 管理に関する既知の課題

JBI コンポーネントの管理に関する既知の課題を次に示します。

- 課題 884 (https://open-esb.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=884)、課題 885 (https://open-esb.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=885)、および OJC の課題 559 (https://open-jbi-components.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=559)

設定エラーがあるときにコンポーネントをシャットダウンすると、コンポーネントを再起動できず、NetBeans IDE または Web コンソールでコンポーネントの設定を編集できません。

これが発生すると、コンポーネントの状態が「停止中」に変更され、プロパティを正しく再設定することができます。プロパティの値を修正したあと、コンポーネントをシャットダウンして再起動し、変更を有効にします。

BPEL サービスエンジンでは、JDBC リソース名にエラーがある場合、エンジンがリソースを所定の名前で作成し、デフォルトの接続プールが使用されていると想定します。Derby データベースが起動されていない場合、デフォルトの接続プールは作成されません。

- NetBeans の課題 163169 (http://www.netbeans.org/issues/show_bug.cgi?id=163169)

「Java アプリケーションプロジェクトのプロパティ」ウィンドウで「保存してコンパイル」オプションを選択すると、JAXB クラスファイルが実行時に削除されます。プロジェクトは、実行時に次の例外が発生して失敗します。

```
Exception in thread "main" java.lang.NoClassDefFoundError
```

この課題を回避するには、「保存してコンパイル」オプションの選択を解除します。このオプションにアクセスするには、「Java アプリケーションのプロパティ」ウィンドウで、「構築」、「コンパイルしています」の順に選択します。

ローカリゼーションに関する既知の課題

ローカリゼーションに関する既知の課題を次に示します。

- 課題 1138 (https://open-esb.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=1138)

英語以外のロケールで次の手順を実行すると、GlassFish サーバーツリーを展開して値を選択できなくなります。

1. 新規ファイルウィザードを起動して、新しい JCA メッセージ駆動型 Bean を作成します。
2. ウィザードの手順 1～3 を完了します。
3. 手順 4 の「接続 URL」で、省略記号のボタンをクリックし、GlassFish を起動して JNDI 値を取得します。

この課題を回避するには、GlassFish 管理コンソールを使用して、「接続 URL」に入力する JNDI 値を取得します。値にアクセスするには、「リソース」、「コネクタ」、「管理オブジェクトリソース」の順に選択します。

- CR 6883496
中国語のロケールで複合アプリケーションを作成するときに、複合アプリケーションのビルドプロセスが失敗します。

インストールと起動に関する既知の課題

インストールに関する既知の課題を次に示します。

- CR 6706840
Java CAPS を Red Hat Enterprise Linux 5 にインストールする場合、インストールが完了したときにインストーラが応答を停止します。
これを回避するには、ウィンドウの右上にある「X」ボタンを選択します。新しいウィンドウに、「Installation not complete」というメッセージが表示されます。このウィンドウで、「了解」を選択します。
- CR 6684782
AIX 5.3 で JDK 6 を使用する場合、SAR ファイルのアップロードが失敗します。
この課題を回避するには、AIX 5.3 では JDK 6 ではなく JDK 5 だけを使用してください。
- CR 6710310
AIX 5.3 では、`importProject.sh` コマンドの実行が失敗します。
この課題を回避するには、AIX 5.3 では JDK 6 ではなく JDK 5 だけを使用してください。
- CR 6820147
OpenSolaris 2008.11 で実行する場合、GlassFish サーバーが起動時にタイムアウトします。`asadmin start-domain` を実行すると、実際にドメインが起動および動作している場合でも、次のメッセージが表示されます。

```
Timeout waiting for domain domain1 to go to starting state.  
CLI156 Could not start the domain domain1.
```
- CR 6797262
Java CAPS を OpenSolaris にインストールする前に、OpenSolaris に次のパッケージがインストールされていることを確認してください。これらはデフォルトのパッケージセットに含まれていません。これらのパッケージがない場合、Java CAPS のインストールが失敗します。
 - SUNWfontconfig
 - SUNWj6dev
 - SUNWj6rtx

- SUNWxwplt
- SUNWdbus
- SUNWxcu4 (OpenSolaris 2009.06)
- CR 6881305
Java CAPS で JDK 1.6.0_12 以降を使用している場合、アプリケーションの開発に使用するウィザードおよびエディタで課題が発生します。また、JDK 1.6.0_13 または 1.6.0_14 を使用している場合は、Windows でインストールが失敗します。Java CAPS インストーラは、Solaris SPARC または AMD 環境で、64 ビットバージョンの JDK release 1.6.0_04 をサポートしません。また、インストーラは AIX 5.3 上の JDK 1.6.0 以降もサポートしません。
この課題を回避するには、Java CAPS で JDK 6 を使用する場合は、JDK バージョン 1.6.0_03 から 1.6.0_11 のみを使用してください。ただし、Solaris SPARC、AMD、および AIX については、ここで説明したように例外があります。
- CR 6881054
インストーラで、一部のメッセージが途中までしか表示されず、テキスト全体を読むことができません。インストーラのウィンドウの幅を広げて、メッセージ全体を表示できる場合もあります。
- CR 6865075
Java CAPS 6.2 に 5.0.x プロジェクトをインポートするときに、接続マップの接続が正しく引き継がれない場合があります。これが発生すると、プロジェクトをビルドするときに接続マップのエラーが発生します。エラーメッセージには、修正が必要な接続に関する情報が示されます。
- CR 6881054
Java CAPS インストーラの JDK の選択セクションで、メッセージが途中までしか表示されず、読むことができません。

相互運用性に関する既知の課題

相互運用性に関する既知の課題を次に示します。

- CR 6707146
Java CAPS に用意されたデフォルトの Access Manager のセットアップは、Federated Access Manager 8.0 では動作しません。
- CR 6662622
Java CAPS 5.1.3 のワークリストマネージャーポートレットは、Portal Server 7 では配備されません。
- CR 6761432

amserver の配備を取り消せません(「GlassFish V2」、「アプリケーション」、「Web アプリケーション」の下)。amserver の配備を取り消そうとすると、NetBeans と GlassFish 間の接続が壊れます。

- CR 6703514

Access Manager はローカルホストに対してあらかじめ設定されています。FQDN でアクセスされた場合に、リモートアクセス可能性の課題が発生します。

この課題を回避するには、次の手順を実行します。

1. GlassFish を停止します。
2. `JavaCapsHome/appserver/domains/DomainName/applications/j2ee-modules/amserver/WEB-INF/classes` に移動し、テキストエディタで `AMConfig.properties` を開きます。
3. `com.sun.identity.server.fqdnMap[<invalid-name>]=<valid-name>` プロパティのコメントを解除します。
4. `<invalid-name>` および `<valid-name>` に適切な値を代入して、プロパティを変更します。
5. GlassFish を再起動します。

- CR 6882644

GlassFish および Web Space Server が別のファイルベースの配布からインストールされている場合、Web Space Server の WAR ファイルの配備が失敗します。

この課題を回避するには、管理コンソールを使用するか、ファイルをドメインの自動配備ディレクトリにコピーして、ファイルを手動で配備します。

NetBeans に関する既知の課題

- Java CAPS 6 は、Java CAPS Installer でインストールされた NetBeans プラグインで動作するように、テストおよび保証されています。NetBeans IDE にほかの NetBeans プラグインやプラグインの更新をインストールすると、互換性の課題が発生する場合があります。Java CAPS Support から入手したプラグインや更新には、この内容は適用されません。

NetBeans IDE を起動するときに、他社製のプラグインの更新を IDE にインストールするよう要求される場合があります。これらの更新はインストールしないでください。今後メッセージを表示しないにするには、次の手順を実行してください。

1. NetBeans IDE で、「ツール」をクリックし、「プラグイン」を選択します。
2. 「プラグイン」ウィンドウで、「設定」タブを選択します。
3. CAPS リポジトリアップデートセンターだけを選択し、ほかのアップデートセンターの選択を解除します。

4. 「閉じる」をクリックして、変更を保存し、「プラグイン」ウィンドウを閉じます。

ほかの NetBeans プラグインを使用する場合は、.netbeans ディレクトリをバックアップします。このディレクトリは、Java CAPS インストールディレクトリの最上位にあります。または、別にインストールされた NetBeans を使用して、Java CAPS に含まれていないほかのプラグインを試してください。バックアップした .netbeans ディレクトリを復元する必要がある場合は、NetBeans IDE が動作中でないことを確認します。現在の .netbeans ディレクトリを削除し、バックアップしたディレクトリで置き換えます。

GlassFish Enterprise Server に関する既知の課題

■ CR 6684658

GlassFish Enterprise Server が Windows サービスとして実行されている場合、STCMS サーバーが正常にシャットダウンされません。サービスを停止したあとも、STCMS が Windows のタスクマネージャーに表示されます。

Java CAPS 6 を Windows にインストールし、Java CAPS を Windows サービスとして実行する場合、この課題を回避するには、インストール後に domain.xml に次の行を追加します。

```
<jvm-options>-Dcom.sun.enterprise.server.ss.ASQuickStartup=false</jvm-options>
```

■ CR 6744439

STCMS インスタンスを作成および管理する asadmin コマンドが、asadmin help の出力に含まれません。使用可能な STCMS コマンドは次のとおりです。

- create-stcms
- delete-stcms
- list-stcms
- show-stcms-status
- enable-stcms
- disable-stcms

これらのコマンドのヘルプ情報を表示するには、asadmin help *CommandName* と入力します。*CommandName* には、上のコマンドのいずれかを指定します。

Note – これらのコマンドのヘルプ情報を表示するには、STCMS をインストールしている必要があります。STCMS は Mac OS ではサポートされません。したがって Mac では、STCMS がデフォルトの Java CAPS インストールに含まれていません。

■ CR 6785405

作成される `server.log` ファイルの数を制限する `recycle-size` 機能を使用するには、Sun GlassFish Enterprise Manager Performance Advisor をインストールする必要があります。このパッチは <http://sunsolve.sun.com> からダウンロードできます。パッチ ID は 140751 です。Readme ファイルのインストール手順に従ってください。Readme ファイルには、Performance Advisor に関する追加情報へのリンクも含まれています。

- CR 6882939

中国語のロケールを使用している Mac OS に Java CAPS をインストールする場合、デフォルトドメインが正しく作成されません。

JB1 クラスタに関する既知の課題

クラスタ環境で Java CAPS JBI コンポーネントを使用する場合の、既知の課題を次に示します。

- 課題 1909 (https://open-esb.dev.java.net/issues/show_bug.cgi?id=1909)

GlassFish 管理コンソールを使用してクラスタインスタンスを設定するときに、設定が新しいクラスタインスタンスに伝達されません。これはインスタンスが個別に設定されるためです。これにより、配備が失敗する場合があります。

この課題を回避するには、各クラスタインスタンスを個別に設定するか、次の `asadmin` コマンドを使用してクラスタ内のすべてのインスタンスを設定します。

```
asadmin update-jbi-application-variable --component=sun-jms-binding
name=value
```

使用法については、`asadmin` のヘルプを参照してください。

- CR 6883003

Web サービスを GlassFish クラスタに配備するときに、1 つ目のノードに DAS とノードエージェントが含まれ、2 つ目のノードにノードエージェントだけが含まれている場合、Web アプリケーションが 2 つ目のインスタンスで WSDL ファイルを見つけられません。

この課題を回避するには、2 つ目のクラスタインスタンスで DAS のディレクトリ階層を作成し、Web アプリケーションが検索を行う場所に、WSDL ファイルをコピーするかシンボリックリンクを作成します。次に例を示します。

```
mkdirhier /opt/glassfish/domains/domain1/applications/j2ee-modules/
WebAppName/WEB-INF/wsdl/client/WSDLName/
```

```
cd /opt/glassfish/domains/domain1/applications/j2ee-modules/
WebAppName/WEB-INF/wsdl/client/WSDLName/
```

```
cp /opt/glassfish/nodeagents/
ClusterNodeAgent/InstanceName/applications/j2ee-modules/
WebAppName/WEB-INF/wsdl/client/WSDLName/ WSDLName.wsdl
```

```
ln -s /opt/glassfish/nodeagents/  
ClusterNodeAgent/InstanceName/applications/j2ee-modules/  
WebAppName/WEB-INF/wsdl/client/WSDLName/ WSDLName.wsdl
```

その他の既知の課題

- MySQL はマイクロ秒をサポートしません。したがって、受信メッセージにマイクロ秒の値を含む時刻またはタイムスタンプのフィールドが含まれている場合、秒の値の端数部分はデータベースで無視されます。たとえば、タイムスタンプの値が「2010-12-10 14:12:09.019473」の場合、下位の 6 桁 (019473) は無視されます。
- CR 6761256
Enterprise Manager が実行されていない場合、Enterprise Manager のコマンド stopserver は、実行されていないことを通知する代わりに例外をスローします。
- CR 6744536
XML Schema の Unique Particle Attribution (UPA) 規則のオンとオフを切り替える方法がありません。この機能はスキーマの曖昧さを防止します。Java CAPS 5.1.3 では、デフォルトで UPA チェックが無効です。Java CAPS 6 では、デフォルトで UPA チェックが有効です。
この課題を回避するには、XML.properties という名前のファイルを作成し、次の行を追加します。
`enforceUnqPartAttrib=false`
ファイルを `/.netbeans/caps/config/Preferences/com/stc/capsee/cor/utilities` に保存します。これにより、UPA チェックが無効になります。UPA チェックを有効にするには、ファイルを削除するか、パラメータを `true` に設定します。
- CR 6662117
Release 6 は、古い 5.x release のコンポーネントを Release 6 のコンポーネントと一緒に使用することをサポートしません。たとえば、5.1.3 Enterprise Designer から Release 6 のリポジトリに接続することはできません。また、NetBeans から 5.1.3 リポジトリに接続することもできません。これは、Enterprise Manager の場合と同様です。